

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・3学年・ABCDEF組
教科書	『精選 論理国語』（数研出版） 『文学国語』（数研出版）	副教材等	「精選 論理国語」「文学国語」（数研出版） 「入試頻出漢字＋現代文重要語彙TOP2500」（いわずな書店） 「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「小論文ジャンル別キーワード解説」（桐原書店） 「大学入学共通テスト演習 現代文 五訂版」（いわずな書店）

1 学習の到達目標

<p>「論理国語」「文学国語」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>
--

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	情報と社会	○「消費されるスポーツ」	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題等の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	考えの表出	◆探究の窓 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」 「希望を語る」	・統計資料と文章から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取る。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望を持つために必要なことについて自分の考えを論述する。	
	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	昭和初期の小説	●「山椒魚」井伏鱒二	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	
6	中間考査				
	「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。	明治の小説	●「舞姫」森鷗外	・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。	
7					
8	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 [B(1)イ]	情報と社会	○「弱いつながり」	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱いつながり」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	
9	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 [B(1)エ]				
	期末考査				

10	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。	考えの表出	○「空気」と「世間」・「世間」とは何か	・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダードを生きる日本人」について考察し、意見をまとめる。	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題等の提出 ・小テスト ・定期考査 等	
11	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。[B(1)カ]	大正の小説	●「檸檬」梶井基次郎	・「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 ・「二銭や三銭のもの」といって贅沢なもの。美しいもの—といて無気力な私の触角にむしろ媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだとは、どういふことを説明する。 ・「第二のアイディア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。		
12	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。	情報と知性	○「生命の知性」	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。		
学年末考査						
1	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	異文化と普遍	○「学問の政治性」	・「無意識のバイアス」の内容を理解し、筆者が述べる問題点を踏まえたうえで、具体例をあげて論述する。 ・「政治」に関する二つの文章を関連づけて読み、自分の意見を述べる。		
	「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。[A(1)エ]	考えの表出	○「『いき』の美学」	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。		

3 評価の観点

知識・技能	[論理国語] 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。 [文学国語] 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
思考・判断・表現	[論理国語] 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 [文学国語] 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	[論理国語] 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 [文学国語] 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

国語という教科は、ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問です。様々なテキストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことができます。また、先人の考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることも、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。

授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

○漢字テストを実施します。しっかりと準備したうえでテストに臨みましょう。

○提出物の期限を守りましょう。

※皆さんのニーズを見ながら、予定を変更することもあります。

※『小論文ジャンル別キーワード解説』は、定期テストで出題します。

令和8年度 国語科「総合古典」 シラバス

単位数	3	学科・学年・学期	普通科・3学年・1類型A～D
教科書	「古典探究 古文編」(数研出版) 「古典探究 漢文編」(数研出版)	副教材等	『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編』(数研出版)

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

2 学習の計画

※学習項目の○は古文、●は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	随筆	○『枕草子』「二月つごもりごろに」	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなきむ」とは、誰をどのように評しているのか説明する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	●『廉頗・藺相如』「璧を趙に帰さしむ」	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	
	「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	日記文学	○『建礼門院右京大夫集』「なべて世の」	・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。 ・「なべて世の……」「悲しとも……」の歌に込められている作者の気持ちを説明する。 ・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。	
			中間考査		
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	○『蜻蛉日記』「うつろひたる菊」	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくろひて書いて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。	
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	小説	●『本事詩』「人面桃花」	・第一段落から、崔護と女の互いに対する思いが読み取れる箇所を指摘する。 ・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。	
8 9	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	歴史物語	○『大鏡』「南院の競射」	・道長と伊周はそれぞれどのような人物として描かれているか、まとめる。 ・道隆が、「色青く」なったり、「な射そ」と言ったりした理由を考える。	
			期末考査		

10	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	物語	○『源氏物語』『紫の上の死』	・紫の上の病状が重くその死の近いことがどのように語られているか、まとめる。 ・死期の迫る紫の上の美しさについて、どのように述べられているか、まとめる。 ・本文中の歌は、それぞれどのような思いを詠んだものか、説明する。 ・紫の上の死がどのように描かれているか、まとめる。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	文章	●『柳河東集』『捕蛇者説』	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか、考える。	
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	評論	○『無名抄』『俊成自讃歌のこと』	・俊成は俊成の「夕されば……」の歌について、どういう点を批判しているのか、まとめる。	
12			学年末考査		
1	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	既習事項の総復習	○物語 ○日記・随筆 ○和歌・俳諧 ○評論 ●物語 ●漢詩 ●思想	・文法・句法・文学史も含めて、長文読解演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょ。授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

令和8年度 スーパーサイエンス「SS-国語β」シラバス

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・3学年・G組・SSHコース
教科書	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版) 『古典探究 古文編』(数研出版) 『古典探究 漢文編』(数研出版)	副教材等	『入試頻出漢字+現代文語彙TOP2500』(いっずな書店) 『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社)

1 学習の到達目標

「論理国語」「文学国語」「古典探究」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	情報と社会	○「消費されるスポーツ」	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	随筆	◇『枕草子』「二月つごもりごろに」	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなきむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。	
	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	逸話	◆『後漢書』「梁上君子」	・「一県無復盜窃」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。	
	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深める。	昭和初期の小説	●「山椒魚」	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	
6			中間考査		

6	<p>「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p>	<p>明治の小説</p>	<p>●「舞姫」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。 ・森鷗外『普請中』を読み、『普請中』の渡辺参事官・「女」、『舞姫』の豊太郎・エリス、計四人の人物像を、比較しながらまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
7	<p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</p>	<p>日記文学</p>	<p>◇『蜻蛉日記』うつろひたる菊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。 	
	<p>「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>小説</p>	<p>◆『本事詩』「人面桃花」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持が表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。 	
8 9	<p>「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。</p>	<p>環境と人間</p>	<p>○「環境と心の問題」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の諸科学の基礎となっている「物心二元論」について、一般的意味と本文における意味を正確にとらえる。 ・「近代の自然観」と「近代の人間観」の共通点をつかむ。 ・クロスカリキュラム実施予定 	
			<p>期末考査</p>		

10	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	考えの表出	○「空気」と「世間」・「世間」とは何か	・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダードを生きる日本人」について考察し、意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	昭和中期の小説	●赤い繭	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 ・「だが、家が出来ても、今度は帰ってゆくおれがいない」とは、どういうことかを考える。 ・この作品に込められた寓意は、どのようなものかを話し合う。 	
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	◆『廉頗・藺相如』『壁を趙に帰さしむ』	<ul style="list-style-type: none"> ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 	
	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	情報と知性	○「生命の知性」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。 	
			学年末考査		
1	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	考えの表出	○「人はなぜ働かなくてはならないのか」	<ul style="list-style-type: none"> ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 	

3 評価の観点

知識・技能	実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

——ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問
「国語」という学問と向き合う時間の中では、様々なテキストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことを目指します。また、古典においては先人たちの考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりしながら、皆さん自身の人生を豊かなものにしていけるでしょう。
授業を通しては、単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。
※『小論文ジャンル別キーワード解説』は、5・6・9章を前期中間考査で、1・4・7章を前期期末考査で、2・3・8章を後期中間考査で出題します。

令和8年度 国語「 理数国語β 」 シラバス

単位数	3	学科・学年・学級	理数科・3学年・H組
教科書	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版) 『古典探究 古文編』(数研出版) 『古典探究 漢文編』(数研出版)	副教材等	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版) 『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版) 『入試頻出漢字+現代文語彙TOP2500』(いっずな書店) 『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『ジャンル別キーワード解説』(桐原書店)

1 学習の到達目標

<p>「論理国語」「文学国語」「古典探究」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

2 学習の計画 ※「学習項目」の記号は、下記の区分を表す。 ○論理国語、●文学国語、◇古文、◆漢文

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。[B(1)ア]	情報と知性	○消費されるスポーツ/多木浩二	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喻表現や強調表現の内容を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題等の提出物 ・小テスト ・定期考査 等
		随筆	◇二月つごもりごろに(枕草子)	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなきむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。	
		史伝	◆壁を趙に帰さしむ(廉頗・藺相如)	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[古典探究A(1)イ]				
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。				
			中間考査		
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	◇うつろひたる菊(蜻蛉日記)	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくりて書いて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題等の提出物 ・小テスト ・定期考査 等
		明治の小説	●舞姫/森鷗外	・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。	
7	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	小説	◆人面桃花(本事詩)	・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。	

9	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。[B(1)イ] 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。	情報と社会	○弱いつながら/東浩紀	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱いつながら」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	
9	期末考査				
10	「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	日記文学	◇なべて世の(建礼門院右京大夫集)	・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。 ・和歌に込められている読み手の気持ちを説明する。 ・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題等の提出物 ・小テスト ・定期考査 等
11	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。[文学国語B(1)エ]	大正の小説	●檸檬/梶井基次郎	・「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 ・「二銭や三銭のもの」といって贅沢なもの。美しいものといつて無気力な私の触角にむしろ媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだ」とは、どういうことかを説明する。 ・「第二のアイディア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。	
	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	情報と知性	○生命の知性/森田真生	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。	
12	後期中間考査				
	「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。[A(1)エ]	考えの表出	○「いき」の美学/尼ヶ崎彬	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。	

3 評価の観点

知識・技能	実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語という教科は、ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問です。様々なテキストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことができます。また、古典において先人たちの考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることも、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。

授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

令和8年度 国語「古典研究A」 シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次A～E組（I類）
教科書	古典探究 古文編（数研出版） 古典探究 漢文編（数研出版）	副教材等	正しく読み・解くための力をつける古典ステップ2.5（数研出版） 体系古典文法（数研出版） 体系漢文（数研出版） 読んで見て覚える 重要古文単語315（桐原書店）

1 学習の到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにする。
また、古典を通じた先人のものの見方に触れ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。	閑居友 平家物語	◇「唐土の後の兄」 ◇「鹿の谷の陰謀」 ◇「福足君の舞」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。	・授業態度 ・発問評価・ 音読・学習課題の提出
5	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。		◆「呂氏春秋」 ◆「聊齋志異」 ◆「貞観政要」	・訓読のきまりについて理解を深める。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。	・小テスト ・定期考査 等
中間考査					
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。	更級日記 十訓抄 堤中納言物語	◇「親となりなば…」 ◇「四条大納言…」 ◇「長月の有明の月に」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ・我が国の文化の特質について理解を深め	・授業態度 ・発問評価・ 音読・学習課題の提出
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。		◆「夢溪筆談」 ◆「晏子春秋」 ◆「列女伝」	・作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める姿勢を養う。 ・複数の作品や文章を読み比べ、論述したり発表したりする。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める。	・小テスト ・定期考査 等
8	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	枕草子	◇「ねたきもの」	・内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に表れたものの見方や考え方を理解する。 ・自由な文体の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	
9	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。		◆「荘子」	・思想を述べた文章や関連する解説文を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・思想を述べた文章を読み、その内容や形式、語彙などに関連した課題に応じて調査した成果をまとめたり発表したりする。	
期末考査					

10	・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。	今昔物語集 今鏡 平家物語 新花摘	◇「金を掘ること」 ◇「伏し柴」 ◇「生食の沙汰」 ◇「深夜の客」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・複数の作品や文章を読み比べ、論述したり発表したりする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。		◆「国語」 ◆「史記」 ◆「孟子」 ◆「十八史略」	・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・思想を述べた文章の特徴について理解を深める。	
12	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	花月草紙 古今著聞集	◇「浅草の市」 ◇「嵯峨天皇と弘法大師」 ◆「帰田録」 ◆「韓詩外伝」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める姿勢を養う。 ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて内容を解釈する。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。	
中間考査					
1	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。	大鏡 無名抄	◇「道長と隆家」 ◇「瀬見の小川」	・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて、内容の解釈を深める。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
1	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。		◆「捜神記」 ◆「宋名臣言行録」	・漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・漢詩の特徴について理解を深める。 ・漢詩の構成・展開のしかたについて理解を深める。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。</p> <p>授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。</p>
--

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 C、D 組 (選択)
教科書	詳説 世界史 (山川出版社)	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

1 学習の到達目標

<p>① 世界史探究を踏まえ地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第9章 中華世界の变容とモンゴル帝国	1 唐の崩壊後の東アジア	○10世紀の東アジア諸国の大変動はどのようにしておこったのかについて理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査	
			2 宋代の新展開	○唐宋変革とよばれる中国社会の大変革はどのようにしておこったのかについて理解する。		
			3 モンゴル帝国	○モンゴル帝国はどのようにして大帝國へと発展したのかについて理解する。		
			4 元の成立	○モンゴルの支配は、中国や朝鮮、日本の社会や文化にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。		
	5	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア	1 イスラームのインドとインド洋海域への浸透	○イスラームはインド社会にどのように広がり、どのような影響を与えたのかについて理解する。		
			2 海と陸の結合 —— 東南アジア世界の発展	○東南アジアにおいて国家が発展する過程が、島嶼部と大陸部で異なる要因について理解する。		
	6	第11章 大交易時代と世界の一体化	1 アジア交易圏の再編と活況	○アジアの交易世界は、なぜマラッカを中心に再編されることになったのかについて理解する。		
			2 ポルトガルのアジア進出	○ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。		
	7	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄	3 明と日本・朝鮮の動向	○明の国内重視の国家体制と活発な交易がいかに両立したのかについて理解する。		○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
			4 一体化に向かう世界			
1 中央アジアと西アジアの繁栄			○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について理解する。			
2 インドの大国 —— ムガル帝国			○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて理解する。			
9	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	3 清と東アジア	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて理解する。			
		1 主権国家群の形成と宗教改革	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかかわりがあったのかについて理解する。			
		2 オランダの繁栄と英仏の国家形成	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について理解する。			
		3 商業覇権と植民地建設	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて理解する。			
		4 啓蒙専制国家の発展	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて理解する。			
			期末考査			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第14章 国民国家と近代社会の形成	1 産業革命と工業化 2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	○イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。 ○北アメリカの政治変革によってどのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	11	第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容	1 産業資本主義の世界への波及と欧米社会 2 西アジアの危機と改革のはじまり	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて理解する。 ○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて理解する。	
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	1 列強の覇権争い 2 西アジア・中央アジアの変革	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて理解する。 ○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	2		3 南アジア・東南アジアの民族運動 4 清の体制転換と近代国家建設の模索	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について理解する。 ○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて理解する。	
	3	第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	1 第一次世界大戦	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて理解する。	
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

“歴史の舞台に登場する人物達がその時何を思いどう行動したか。歴史とはそれらの人物を通して自身を顧みる鏡である。”とある学者の発言の引用です。歴史の学習をただ単に過去の出来事を覚えるだけと捕らえるのではなく、過去からの時間のつながりの中での「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 C、D 組 (選択)
教科書	詳説 世界史 (山川出版社)	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

1 学習の到達目標

<p>① 世界史探究をさらに発展させ、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	序章——世界史へのまなざし	1 農業と気候	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
		第1章 古代文明の出現	2 古代オリエントとエーゲ海地域 3 南アジアの古代文明 4 東アジアにめばえた文明		
	5	第2章 西アジアと地中海周辺	1 古代オリエントの統一 2 古代ギリシアとヘレニズム世界 3 ローマ帝国と地中海世界 中間考査		
	6	第3章 南アジア	4 古代末期の社会と地中海世界の解体 5 地中海世界とアジア 6 イスラーム世界の成立 7 中世初期の東西ヨーロッパ	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	7		1 南アジアにおける国家形成 2 インド世界の形成		
		第4章 東南アジア	1 海の道の形成と東南アジア		
		第5章 東アジアと中央ユーラシア	1 古代帝国の誕生 2 中国の分裂と多様化 3 隋唐帝国と東アジア		
	9	第6章 イスラーム世界の拡大と繁栄	1 イスラーム世界の発展 2 イスラーム文明 期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第8章 中世ヨーロッパ	1 中世ヨーロッパ社会の展開	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	11		2 中世西ヨーロッパ社会の成熟 3 中世西ヨーロッパの文化		
	12		4 中世ヨーロッパ社会の再編 中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1		5 ルネサンス	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	2		■資料で深める歴史の世界 レコンキスタ完成でスペイン社会はどのように変わったのだろうか 諸地域の交流・再編への問い		
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 考察構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

“歴史の舞台に登場する人物達はその時何を思い、どう行動したか。歴史とは、それらの人物を通して自身を顧みる鏡である。”とある学者の発言の引用です。歴史の学習を、ただ単に過去の出来事を覚えるだけ、と捕らえるのではなく、過去からの時間のつながりの中の「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。
--

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD組
教科書	日本史探究 (実教出版)	副教材等	図説日本史通覧 (帝国書院)

1 学習の到達目標

<p>①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第3章 中世の国家・社会の変容	3 室町社会の展開と応仁の乱	・応仁の乱によって、畿内と地方の関係はどのように変化したのか理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査 (全4回)
			4 室町文化	・室町文化の特徴と、政治や経済の動向との関係について理解する。	
			5 戦国大名の分国経営	・戦国大名の領国経営と畿内との政治的・経済的な関係について考える。	
	5	第2章 幕藩体制の成立と展開	1 織豊政権	・織豊政権の政治・経済政策による都市や村落の支配の変化を考える。	
			2 天下統一の完成	・家康の対外政策がアジア各地やヨーロッパ諸国との交流に与えた影響について理解する。	
			3 近世成立期の文化	・アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が文化に与えた影響について理解する。	
			1 幕藩体制の成立	・法や制度による支配秩序の形成と幕藩体制の確立について考える。	
	6		2 貿易の統制と対外関係	・幕府の対外政策の推移とアジアの国際情勢の変化について考える。	
			3 近世社会のしくみ	・村落や都市の支配の変化について考える。	
			4 幕府政治の展開	・統治政策の推移と経済政策の展開が人々の生活や社会に与えた影響について考える。	
			5 経済の発展	・交通・流通の発達、農業・手工業・商業などの発達が相互にどのように関連しているのか考える。	
			6 元禄文化と学芸の発展	・元禄文化が都市の発達や担い手となった新興町人や農民たちとの関連性について考える。	
	7	第3章 近世の国家・社会の変容	中間考査		
			1 幕藩体制の動揺と幕政の改革	・飢饉や一揆の発生と幕府の政策との関係性について考える。	
			2 欧米列強の接近と天保の改革	・外国船の接近による社会への影響や幕府の対応を考える。	
	9	第4部 近現代の地域・日本と世界 第1章 開国から倒幕へ 第2章 明治維新	3 近世文化の成熟と変容	・江戸中・後期の文化が近代の転換や現代の社会に与えた影響について考える。	
			1 明治維新	・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解する。	
			2 文明開化	・明治政府が行った宗教政策の過程を考える。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3章 近代国家の形成	1 立憲国家への道	・自由民権運動の展開を考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	11		2 議会政治の展開と日清・日露戦争	・日清戦争の原因・経過・結果とその後の国内の変化を考える。	
			3 産業革命と社会の変化	・財閥や寄生地主が生まれる経緯を考える。	
	12	第4章 両大戦間の日本	1 第一次世界大戦	・第一次世界大戦の展開と日本の関わり方を考える。	
			2 政党政治の展開	・第一次世界大戦後の国際秩序の構築の過程と目的を考える。	
1	第5章 十五年戦争と日本	3 市民文化の展開	・都市部でのさまざまな変化を考える。		
			中間考査		
			1 満洲事変	・満洲事変の展開と、それにたいする国際社会の見方について考える。	
			2 日中戦争	・二・二六事件の展開とその後の影響について考える。	
			3 アジア・太平洋戦争（太平洋戦争）	・アジア・太平洋戦争の経緯を考える。	

3 評価の観点

知識・技能	<p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。</p> <p>○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>
思考・判断・表現	<p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>

4 評価の方法

- ① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。
- ② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。
- ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
- ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

日々の授業では、積極的な参加姿勢が求められます。歴史の学習をただ単に過去の出来事を覚えるというのではなく、過去からの時間のつながりの中で「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする姿勢で取り組んで欲しいと思います。前後の有機的なつながりを理解し、自らの歴史像を作り上げていくような授業参加を望みます。この授業を通して歴史的な見方や考え方を理解し、より多角的で柔軟な思考を身につけてもらいたいと期待しています。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD組
教科書	日本史探究（実教出版）	副教材等	図説日本史通覧（帝国書院）

1 学習の到達目標

<p>①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第6章 戦後日本の形成	1 占領と民主改革	戦後の日本と各国の関係について考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（2回）	
			2 独立と日米安保体制の形成	冷戦がアジアに及ぼした影響について考える。 講和後の国内政治を考える。		
			3 高度経済成長下の日本	高度経済成長とその問題点について考える。 ベトナム戦争から沖縄返還までの流れを考える。		
	4	第7章 グローバル化のなかの現代日本	1 「国際化」する経済大国	日本の高度経済成長が終わりを迎えた経緯を考える。 1980年代の行政改革で変化した内容を考える。		
			2 新たな世紀の日本へ	21世紀の世界や日本の政治・経済は、これまでとどこが大きく異なっているのかを考える。		
	6	1. 近世のナショナル・アイデンティティを考える 2. 幕藩体制の矛盾を考える 3. 「開国」を考える	①朝鮮通信使 ②アイヌ	朝鮮通信使やアイヌの肖像といった資料をもとに、日本の対朝鮮・アイヌ観を考える。		
			大名行列のなかの武家奉公人 朝鮮の「開国」と近代日本	大名行列の構成から、近世武家社会の矛盾を考える。 日朝両国の欧米への対応の違いとその後の日朝外交の展開を考える。		
	7	【中間考査】				
			4. 天皇の「神格化」を考える	天皇の肖像		天皇の肖像を教材に、明治政府がどのような近代天皇像を構想していたのかを考える。 日本の神仏信仰について、古代からさかのぼって考察する。
			5. 文明開化とジェンダーを考える 6. 自由民権運動を考える	自由民権運動		秩父事件を通して自由民権運動への考察を深める。
9	7. 近代日本の戦争と植民地について考える 【期末考査】	日清戦争	日清戦争はどのような戦争だったのか考える。			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	7. 近代日本の戦争と植民地について考える	①伊藤博文と安重根	伊藤博文と安重根が考えていた東アジアの「平和」とは何か、帝国日本はなぜ朝鮮に神社を建てたのか、朝鮮人は日本の戦争にどのように動員されたのか、東京大空襲・沖縄戦・原爆投下といった、悲惨な戦争はなぜ起こったのかを考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（1回）
	11		②朝鮮植民地支配		
	12		③アジア太平洋戦争		
	1		④日韓基本条約		
		【中間考査】			
		7. 戦後日本の課題と責任について考える	①敗戦と解放後	敗戦・解放後の新しい社会づくりはどのように進められたか、朝鮮戦争に日本はどのように関わったのか、韓国の4・19革命から何を学ぶか、日本と韓国はどのように国交を正常化したのか、日朝・南北間の信頼醸成・平和構築はどのように進められてきたのかについて、現代の日韓関係を比較しながら考察していく。	
		②朝鮮戦争			
		③4・19革命			
		⑤日朝国交正常化			

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> ① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>日々の授業では、積極的な参加姿勢が求められます。歴史の学習をただ単に過去の出来事を覚えるというのではなく、過去からの時間のつながりの中で「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする姿勢で取り組んで欲しいと思います。前後の有機的なつながりを理解し、自らの歴史像を作り上げていくような授業参加を望みます。この授業を通して歴史的な見方や考え方を理解し、より多角的で柔軟な思考を身につけてもらいたいと期待しています。</p>
--

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 C組
教科書	新詳地理探究(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)	副教材等	新詳地理資料COMPLETE(帝国書院), winningcompass(とうほう)

1 学習の到達目標

- ① 地理探究での学習の成果をふまえ、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える。現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、世界の諸地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な地誌的な考察方法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の地形について、内外の営力の視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちをとらえ、それぞれの気候区の特徴と、農業など人間生活の影響を考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全3回)
	5	第2章 資源と産業 第3章 人口、村落・都市	1 農林水産業 2 エネルギー・工業 1 世界の人口 2 村落と都市 中間考査	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の資源と産業について、発達とその分布や立地について、特徴や課題を分析するとともに貿易や世界経済との関連を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・地理探究の学習内容をふまえ村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。	
	6	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 アジア 第2章 アフリカとヨーロッパ	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 中央・西アジア 1 アフリカ 2 ヨーロッパ	・地理探究の学習内容をふまえ、アジア各地の多様性について、民族や言語・宗教の観点からその特徴を理解する。あわせて工業発展や経済成長について、影響や課題について考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、アフリカならびにヨーロッパの資源と産業について、その分布と利用を宗主国と植民地の関係や世界のエネルギー状況を学習し考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全3回)
	7	第3章 南北アメリカ	1 北アメリカ 2 南アメリカ	・地理探究の学習内容をふまえ、南北アメリカの開発と発展を民族と産業の観点から理解する。あわせて多民族社会における課題を、現代世界の状況をふまえ考察する。	
	9	第4章 オセアニア	1 オセアニア 期末考査	・地理探究の学習内容をふまえ、移民の歴史と多文化社会や、自然を生かして発達した産業について理解し、強まるアジア太平洋地域との結びつきについて考察する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 総合演習	1 さまざまな地図と世界	<ul style="list-style-type: none"> これまでの地理学習をふまえ、図法を理解し、現代世界の状況を地図から考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、地域調査の技法を学習する。主として日本国内の都市について、地図や情報から地域を考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、地形や気候などの自然環境について整理し、人間生活や産業とのかかわりについて地域を考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、世界各地の生活文化と民族・宗教について整理し、地域の多様性を考察する能力を養う。また、多文化の共生に向けた取り組みや民族問題についても理解を深める。 	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 地域の調査と研究		
	11		3 自然環境と生活		
	12		4 生活文化と民族・宗教		
			中間考査		
	1		5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をふり返り、総合演習のまとめをおこなう。 	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習の成果をふまえ、さまざまな資料や地図・情報などの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めている。また、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状についてより高度に理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習の成果をふまえ、地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○より高度な知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> ① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポート等を評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。</p>
--

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 DF組
教科書	新詳地理探究(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)	副教材等	新詳地理資料COMPLETE(帝国書院), winningcompass(とうほう)

1 学習の到達目標

- ① 地理探究での学習の成果をふまえ、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える。現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、世界の諸地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な地誌的な考察方法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の地形について、内外の営力の視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちをとらえ、それぞれの気候区の特徴と、農業など人間生活の影響を考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全3回)
	5	第2章 資源と産業 第3章 人口、村落・都市	1 農林水産業 2 エネルギー・工業 1 世界の人口 2 村落と都市 中間考査	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の資源と産業について、発達とその分布や立地について、特徴や課題を分析するとともに貿易や世界経済との関連を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・地理探究の学習内容をふまえ村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。	
	6	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 アジア 第2章 アフリカとヨーロッパ	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 中央・西アジア 1 アフリカ 2 ヨーロッパ	・地理探究の学習内容をふまえ、アジア各地の多様性について、民族や言語・宗教の観点からその特徴を理解する。あわせて工業発展や経済成長について、影響や課題について考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、アフリカならびにヨーロッパの資源と産業について、その分布と利用を宗主国と植民地の関係や世界のエネルギー状況を学習し考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全3回)
	7	第3章 南北アメリカ	1 北アメリカ 2 南アメリカ	・地理探究の学習内容をふまえ、南北アメリカの開発と発展を民族と産業の観点から理解する。あわせて多民族社会における課題を、現代世界の状況をふまえ考察する。	
	9	第4章 オセアニア	1 オセアニア 期末考査	・地理探究の学習内容をふまえ、移民の歴史と多文化社会や、自然を生かして発達した産業について理解し、強まるアジア太平洋地域との結びつきについて考察する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 総合演習	1 さまざまな地図と世界	<ul style="list-style-type: none"> これまでの地理学習をふまえ、図法を理解し、現代世界の状況を地図から考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、地域調査の技法を学習する。主として日本国内の都市について、地図や情報から地域を考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、地形や気候などの自然環境について整理し、人間生活や産業とのかかわりについて地域を考察する能力を養う。 これまでの地理学習をふまえ、世界各地の生活文化と民族・宗教について整理し、地域の多様性を考察する能力を養う。また、多文化の共生に向けた取り組みや民族問題についても理解を深める。 	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 地域の調査と研究		
	11		3 自然環境と生活		
	12		4 生活文化と民族・宗教		
			中間考査		
	1		5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をふり返り、総合演習のまとめをおこなう。 	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習の成果をふまえ、さまざまな資料や地図・情報などの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めている。また、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状についてより高度に理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習の成果をふまえ、地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○より高度な知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> ① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポート等を評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。</p>
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	3学年 C選択
教科書	新倫理 (清水書院)	副教材等	テオリーア最新倫理資料集 (第一学習社)

1 学習の到達目標

先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、人間の存在や価値に関わる課題について思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成します。また、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、現代の倫理的課題を自己の課題と関連づけて探求し、論理的思考力や表現力を身に付けて、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を養います。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	○青年期の課題と自己形成	青年期の課題と生き方 ①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴 ④主体性の確立 ⑤自己理解	・古今東西の人間観に基づき、あらためて人間とは何かを考察する。また、青年期の特徴を理解すると共にライフサイクルの中で、青年期がいかに重要な時期かを自覚する。	・古今東西の人間観を通して、自分なりの人間観を構築できたか。ライフサイクルの中で、青年期の特徴を整理し、青年期の重要性に気付くことができたか。
	5	○人間としての自覚と生き方	ギリシア思想 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス、プラトン、アリストテレス ③ヘレニズム時代の思想	・ギリシャ思想の基本的な概要を学習すると共に、ソクラテスやプラトン、アリストテレスの思想から様々な世界観があることを知り、自分独自で世界を考察していく力を身に付ける。 ・哲学者の代名詞であるソクラテスの教えと生き方について学習する。	・ギリシャ思想の流れと特徴を整理し、自分なりに考察・意見を述べるができるか。 ・「善く生きる」とは何かを理解し、また自分にとっての善とは何かを思索、主張できるか。
	6		世界宗教 ①キリスト教 ②イスラーム ③仏教	・善や美など、世界の本質について思索したプラトンの思想を整理、学習する。 ・西洋思想の母体の一つであるヘブライズムの概要について学習し、自身の宗教観を構築する。 ・古代インド思想バラモン教について学習し、東洋の源流思想の特徴について知る。	・アイデアと現象の関係を理解すると共に自身の世界観を構築できているか。 ・イエスはユダヤ教の何を継承し何を否定したのかを理解しているか。
7	8	○現代に生きる人間の倫理	西洋思想 ①ルネサンスとヒューマニズム ②宗教改革と人間の内面 ③社会契約説と啓蒙思想 ④幸福と功利 ⑤公共性と正義	・古代インド思想バラモン教について学習し、東洋の源流思想の特徴について知る。 ・仏教の開祖である釈迦の思想と生涯について学習する。また、釈迦の思想をもとに自身の人生観や生命観、生死の問題についても思索していく。	・カースト制度やウパニシャッド哲学の基本性格を理解できているか。
9			前期末考査 答案返却	・西洋の様々な思想を紹介し、基本的事項を身につける。知識のための知識ではなく、より実践的な生活に生かせる知識を身につけ、西洋思想の観点から世界を考察していく。 ・実存主義において、「存在するとは何か？」存在に対する認識の通路を見出す。	・ニーチェやベーコン、デカルトなどの世界観を考察して、それらに触れることにより新たな発見、独自の世界観を構築できるか。 ・ハイデガー、サルトル、ヤスパースの考え方を理解しているか。

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	○国際社会に生きる日本人の自覚	日本の風土と外来思想の受容 ①日本人の人間観・自然観・宗教観 ②日本人の仏教受容 ③近世社会の思想 ④近代的個人の自覚	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。	・古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえるとともに、宗教観・倫理観を理解できたか。
	11			・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	・外来思想である仏教の受容や日本的仏教の特色、無常観・美意識・武士道などにおける特色を捉えることができたか。
	12			・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	・儒教の日本的展開について、日本の朱子学や陽明学、古学、古文辞学を中心に知識を整理しているか。
		○現代の諸課題と倫理	自然や科学技術、社会、文化をめぐる諸課題 ①環境と倫理 ②生命と倫理 ③科学技術の発展とその課題 ④文化や宗教の多様性 後期中間考査	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。	・西洋文化との接触後、日本人の思想形成についての流れを理解できたか。
				・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。	・科学技術が進歩した現代における生と死の問題についてのディベートなどで、積極的な姿勢が見受けられるか。

3 評価の観点

知識・技能	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料を通して人間としての在り方生き方を考え、まとめることができる。
思考・判断・表現	自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。また、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。また、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

4 評価の方法

上記3に示した3つの観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

様々な人間関係、社会不安など時代は混乱し、行き詰まりを見せています。そうした社会の中で、確かな人生を歩む羅針盤と一緒に探求していきたいと思っております。一年間よろしくお願ひします。

令和8年度 公民科 「政治・経済」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・A～G組
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

- ① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）
- ② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）
- ③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済 第1章 現代政治のしくみと日本	1. 政治とはなにか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家の三要素と主権について理解する。 ・ 民主主義における意思決定のあり方を中心に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど 	
			2. 法とはなにか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や社会規範との違いから多面的・多角的に考察する。 		
			3. 現代民主政治へのあゆみと基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な経過を、社会契約説の展開とともに理解する。 ・ 民主政治の意義と課題について理解する。 		
			4. 議会制民主主義と世界の政治体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の政治体制と比較することで民主政治の本質を理解する。 		
	5		5. 日本国憲法の成立と基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・ 日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解する。 		
			6. 基本的人権と新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 人権に関する現実社会の課題について考察する。 		
	6			中間考査		
				7. 平和主義と安全保障		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の平和主義を理解する。 ・ 日本の安全保障と防衛について理解を深める。
				8. 日本の政治機構		<ul style="list-style-type: none"> ・ 立法・行政・司法の権限を、憲法の条文に基づいて理解する。
				9. 政党政治と政治制度		<ul style="list-style-type: none"> ・ マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 ・ 政治参加の課題について考察する。
9			10. 地方自治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治の本旨について理解する。 ・ 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 ・ 地方自治が抱える課題について考察する。 		
			期末考査			

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代経済のしくみと日本	1. 経済活動と経済主体	<ul style="list-style-type: none"> 生産と消費、分業と交換の関係について理解する。 希少性や機会費用といった経済的な考え方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
			2. 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界を理解する。 市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。 	
			3. 国民経済と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> GDPをはじめとした各指標について理解する。 経済成長、景気循環、物価の変動はなぜ生じるのか考察する。 経済の変動のメカニズムについて理解する。 	
			4. 物価とその変動	<ul style="list-style-type: none"> インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。 	
			5. 金融のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 	
	11		6. 財政のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について考察する。 	
			7. 日本経済のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> 復興期、高度経済成長期、バブル経済期、失われた20年のそれぞれの時期の日本経済の特徴を、統計資料を基に理解する。 21世紀の日本経済の課題を考察する。 	
			8. 企業の活動と役割	<ul style="list-style-type: none"> 経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を理解する。 これからの中小企業のあり方を考察する。 	
			9. 労働問題と労働環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 労働法の整備状況や、職場の人権保障について考察する。 労働問題について理解する。 	
			10. 社会保障制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。 	
12		11. 農業と食料問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。 		
		中間考査			

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

1年後、大人として社会へ羽ばたいていくために必要な常識や教養をしっかりと身に付けましょう。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでもらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

令和8年度 公民科 「政治・経済」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・3年次・H組
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

<p>① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）</p> <p>② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）</p> <p>③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済 第1章 現代政治のしくみと日本	1. 政治とはなにか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家の三要素と主権について理解する。 ・ 民主主義における意思決定のあり方を中心に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど 	
			2. 法とはなにか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や社会規範との違いから多面的・多角的に考察する。 		
			3. 現代民主政治へのあゆみと基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な経過を、社会契約説の展開とともに理解する。 ・ 民主政治の意義と課題について理解する。 		
			4. 議会制民主主義と世界の政治体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の政治体制と比較することで民主政治の本質を理解する。 		
	5		5. 日本国憲法の成立と基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・ 日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解する。 		
			6. 基本的人権と新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 人権に関する現実社会の課題について考察する。 		
	6			中間考査		
				7. 平和主義と安全保障		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の平和主義を理解する。 ・ 日本の安全保障と防衛について理解を深める。
				8. 日本の政治機構		<ul style="list-style-type: none"> ・ 立法・行政・司法の権限を、憲法の条文に基づいて理解する。
				9. 政党政治と政治制度		<ul style="list-style-type: none"> ・ マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 ・ 政治参加の課題について考察する。
9			10. 地方自治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治の本旨について理解する。 ・ 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 ・ 地方自治が抱える課題について考察する。 		
			期末考査			

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代経済のしくみと日本	1. 経済活動と経済主体	<ul style="list-style-type: none"> 生産と消費、分業と交換の関係について理解する。 希少性や機会費用といった経済的な考え方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
			2. 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界を理解する。 市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。 	
			3. 国民経済と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> GDPをはじめとした各指標について理解する。 経済成長、景気循環、物価の変動はなぜ生じるのか考察する。 経済の変動のメカニズムについて理解する。 	
			4. 物価とその変動	<ul style="list-style-type: none"> インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。 	
			5. 金融のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 	
	11		6. 財政のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について考察する。 	
			7. 日本経済のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> 復興期、高度経済成長期、バブル経済期、失われた20年のそれぞれの時期の日本経済の特徴を、統計資料を基に理解する。 21世紀の日本経済の課題を考察する。 	
			8. 企業の活動と役割	<ul style="list-style-type: none"> 経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を理解する。 これからの中小企業のあり方を考察する。 	
			9. 労働問題と労働環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 労働法の整備状況や、職場の人権保障について考察する。 労働問題について理解する。 	
			10. 社会保障制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。 	
12		11. 農業と食料問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。 		
		中間考査			

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

1年後、大人として社会へ羽ばたいていくために必要な常識や教養をしっかりと身に付けましょう。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでもらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

令和8年度 公民科 「政治・経済研究」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 c・e選択
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

<p>政治・経済の授業内容を踏まえ、さらに発展させて公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)</p> <p>② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。(思考・判断・表現)</p> <p>③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第2編 現代の国際政治・経済	1. 国際社会の成立と国際法	<ul style="list-style-type: none"> ・国内政治や国内法と国際政治や国際法を比較しながら、国際社会の特質をとらえる。 ・国際司法裁判所や国際刑事裁判所の役割を中心に学び、国際的な人権保障のあり方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポート など
	5	第1章 現代の国際社会と政治	2. 国際連合と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・集団安全保障の考え方を理解する。 ・総会や安保理などの仕組み、現代のPKO、専門機関や関連機関のはたらきについて学び、国連の課題やこれからの国際協力のあり方について考える。 	
	6		3. 国際社会の変遷と動向	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦期の国際政治について学び、現代の国際社会への影響を考える。 ・アメリカの「テロとの戦い」を中心に、冷戦後の国際政治について学び、テロや戦争をなくすために本当に有効な政策とは何か考える。 	
	7		4. 国際紛争と軍備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・核武装の背景となっている「核抑止論」について検討し、核軍縮の課題やこれからの政策について考える。 ・旧ユーゴスラビアやルワンダなどの事例から、民族紛争の根本的な原因や解決策を考える。 ・難民問題について理解し、日本の難民受け入れについて多面的多角的な視点で検討する。 	
	9		期末考査		

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
後期	10	第2章 現代の国際社会と経済	1. 国際経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル経済の現状と課題をとらえる。 ・リカードの比較生産費説やリストの発展段階説を踏まえ、自由貿易・保護貿易について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポート など
		2. 国際収支と為替	<ul style="list-style-type: none"> ・国際収支表について学習する。 ・外国為替の仕組みについて学習する。 ・需要と供給の価格メカニズムと為替レートを関連付けてとらえる。 		
		3. 国際協調と国際経済機関の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の国際経済体制がどのように形成され変容してきたか理解する。 		
	12		4. グローバル化と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの事例やEUの事例を中心に、様々な地域経済統合について学び、これからの国際経済協力のあり方について考える。 ・南北問題や南南問題への対処について学ぶ。 ・SDGsや様々なグローバルイシューを踏まえ、国際協力とは何か考える。 	
	1	第3章 国際社会の諸課題	1. グローバル化する世界のリスクとはなにか？	<ul style="list-style-type: none"> ・国境を越えたヒト、モノ、カネの移動がもたらす恩恵とともに、それによって引き起こされるリスクを理解することで、グローバル化する世界での生き方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の取組状況 ○授業プリント ○口頭発表 ○課題レポート など

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

国際政治・国際経済の分野を中心に、政治・経済の内容をさらに深め発展的に学んでいきます。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでもらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

令和8年度 数学科 「数学Ⅲ」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科3年次E～G組(Ⅲ類型・SSHコース)
教科書	数学Ⅲ(数研出版)	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C[複素数平面, 式と曲線]

1 学習の到達目標

極限, 微分法及び積分法について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し, 処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を身に付ける。さらに, それらをもとに大学入試に対応できる応用力を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 関数 2章 極限	1節 数列の極限	無限数列の収束・発散の定義を理解し, 極限に関する法則を利用して様々な数列, 関数の極限についての考察をします。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度(主) 質問に対する応答(主・思・知) 授業中の演習(主・思・知) 小テスト(主・思・知) 課題(主・思・知) 定期考査(主・思・知) 提出物(主)
			2節 関数の極限		
	5	3章 微分法	1節 導関数	「数学Ⅱ」で学んだ微分法について理論的な組み立てを再構築し, さらに広く, 深く学習します。	
			中間考査		
6	7	4章 微分法の応用	2節 いろいろな関数の導関数	媒介変数で表された関数など, より複雑な関数を微分する方法を学習します。	
			1節 導関数の応用	3章で学んだ内容をもとに, 微分を応用する上で必要と思われる基本的性質や方法を正しく学びとれるようにします。	
			2節 速度と近似式		
9	期末考査				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	5章 積分法	1節 不定積分 2節 定積分	積分法とその応用について厳密に理論を組み立て、応用問題を解くための基礎力を養います。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	11	6章 積分法の応用	面積・体積		
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	総合演習		<p>数学ⅠAⅡBCⅢの全分野を総合的に取り上げ、国公立大学入試2次試験に対応できる応用力を養います。</p> <p>大学入学共通テストに対応できる応用力を養います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・課題 (主・思・知)

3 評価の観点

知識・技能	極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくはありません。しかし，それらが累々と積み上がって高度な体系になるのです。ですから，ある段階でのつまずきや知識の欠落が，次のステップに進むうえでの障害になるのです。毎日の予習・復習，特に復習が重要です。また，「わかった」という気分だけでは，実際に問題を前にしたとき，それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を，的確に自力で表現することができてはじめて理解できたといえます。普段の学習では，理解したと思えたらその内容を自分で書いてみることを励行してください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD 組
教科書	数学C (数研出版)	副教材等	新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル]

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり身に付ける

(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

(2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 平面上のベクトル	2節 ベクトルと平面図形	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知)
			5位置ベクトル 6ベクトルと図形 7ベクトル方程式	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を身に付ける。	
	5	2章 空間のベクトル	1空間の座標 2空間のベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	6		3ベクトルの成分 4ベクトルの内積 5位置ベクトル 6ベクトルと図形 7座標空間における図形	平面ベクトルの概念を理解したうえで、より発展的に考えることで空間図形を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	
	7		中間考査		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	9		期末考査		
後期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	10	3章 複素数平面	複素数平面	複素数平面上の点と複素数との1対1の対応と、複素数の加減乗除や累乗、累乗根が複素数平面上でどのように表せるかを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知)
			複素数と図形	複素数と図形	
	11	4章 式と曲線	1節 2次曲線	複素数と図形	複素数と図形
2節 媒介変数表示と極座標			いろいろな2次曲線や媒介変数表示についての学習をします。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主) 	
	12		中間考査		
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが増えるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 D 組 (Ⅱ類型)
教科書	数学C (数研出版)	副教材等	新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル]

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり身に付ける

(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

(2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 平面上のベクトル	2節 ベクトルと平面図形	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知)
			6ベクトルと図形 7ベクトル方程式	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を身に付ける。	
	5	2章 空間のベクトル	1空間の座標 2空間のベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	6		3ベクトルの成分 4ベクトルの内積 5位置ベクトル 6ベクトルと図形 7座標空間における図形	平面ベクトルの概念を理解したうえで、より発展的に考えることで空間図形を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	
	7		中間考査		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	9		期末考査		
後期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	10	3章 複素数平面	複素数平面	複素数平面上の点と複素数との1対1の対応と、複素数の加減乗除や累乗、累乗根が複素数平面上でどのように表せるかを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知)
			複素数と図形	複素数と図形	
	11	4章 式と曲線	1節 2次曲線	複素数と図形	複素数と図形
2節 媒介変数表示と極座標			複素数と図形	複素数と図形	
12			中間考査		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
1			総合演習	大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが増えるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

令和8年度 数学科 「数学C」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科3年次E～G組(Ⅲ類型・SSHコース)
教科書	数学C(数研出版)	副教材等	新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕 数学Ⅲ+C〔複素数平面, 式と曲線〕

1 学習の到達目標

ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を身に付ける。さらに, 数学のよさを認識し, それらを活用できる能力を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等			
前期	4	1章 平面上のベクトル	2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの基本的な概念について理解し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度(主) 質問に対する応答(主・思・知) 授業中の演習(主・思・知) 小テスト(主・思・知) 課題(主・思・知) 定期考査(主・思・知) 提出物(主) 			
		2章 空間のベクトル	空間の座標					
	5		中間考査					
		6	2章 空間のベクトル			空間のベクトル	平面ベクトルの概念を理解したうえで, より発展的に考えることで空間図形を認識し, 事象の考察に活用できるようにする。	
			7					
			9			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3章 複素数平面	複素数平面 複素数と図形	複素数平面上の点と複素数との1対1の対応と、複素数の加減乗除や累乗、累乗根が複素数平面上でどのように表せるかを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知) ・定期考査(主・思・知) ・提出物(主)
	11	4章 式と曲線	1節 2次曲線	いろいろな2次曲線や媒介変数表示についての学習をします。	
	12		2節 媒介変数表示と極座標 中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	総合演習		数学ⅠAⅡBCの全分野を総合的に取り上げ、国公立大学入試2次試験に対応できる応用力を養います。 大学入学共通テストに対応できる応用力を養います。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・課題(主・思・知)

3 評価の観点

知識・技能	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくはありません。しかし、それらが累々と積み上がって高度な体系になるのです。ですから、ある段階でのつまずきや知識の欠落が、次のステップに進むうえでの障害になるのです。毎日の予習・復習、特に復習が重要です。また、「わかった」という気分だけでは、実際に問題を前にしたとき、それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を、的確に自力で表現することができてはじめて理解できたといえます。普段の学習では、理解したと思えたらその内容を自分で書いてみることを励行してください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD組
教科書	数学Ⅰ・数学A(数研出版)	副教材等	数学Ⅰ・A 基礎問題精講 六訂版【旺文社】

1 学習の到達目標

数学Ⅰ・数学Aについて既習内容を確認しながら、理解をさらに深め、総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅰ 数と式	式の展開 因数分解 対称式 整数部分・小数部分 絶対値記号 1次不等式 連立不等式	数学Ⅰの内容を、教科書の重要事項を振り返りながら復習し、さらに発展的な内容も扱います。 (特に重点的に復習する内容) 「数と式」に関して ・対称式 ・絶対値を含む1次不等式 ・不等式を満たす整数の個数	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度(主) 質問に対する応答(主・思・知) 授業中の演習(主・思・知) 小テスト(主・思・知) 課題(主・思・知) 定期考査(主・思・知) 提出物(主)
	5	2次関数	平方完成 2次関数の決定 放物線の平行移動	「2次関数」に関して ・2次関数のグラフの頂点 ・グラフとx軸、放物線と直線との共有点 ・2次関数の最大・最小 ・絶対値のついた2次不等式 ・ある範囲で常に成り立つ2次不等式	
			中間考査		
	6	2次関数	最大値・最小値 判別式 解の配置 2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> 解の配置 指定された解をもつ条件 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度(主) 質問に対する応答(主・思・知) 授業中の演習(主・思・知) 小テスト(主・思・知) 課題(主・思・知) 定期考査(主・思・知) 提出物(主)
	7	図形と計量	三角比 三角不等式 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 円に内接する四角形	「図形と計量」に関して <ul style="list-style-type: none"> 三角形の内接円に関する問題(余弦定理, 相互関係, 面積の公式) 	
	9	集合と論証	集合 集合の要素の個数 命題の真偽 必要条件・十分条件	「集合と論証」に関して <ul style="list-style-type: none"> 必要条件, 十分条件に関する問題 	
		期末考査			

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	データの分析	代表値 箱ひげ図 分散・標準偏差 共分散・相関係数 変量の変換	「データの分析」に関して ・箱ひげ図 ・相関係数 ・変量の変換	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	11	数学A 場合の数と確率	順列・組合せ 反復試行 条件付き確率 期待値	数学Aの内容を、教科書の重要事項を振り返りながら復習し、さらに発展的な内容も扱います。 (特に重点的に復習する内容) 「場合の数と確率」に関して ・組分け ・同じものを含む順列 ・重複組合せ	
	12	図形の性質	三角形の五心 チェバ・メネラウスの定理 方べきの定理 内接球・外接球	「図形の性質」に関して ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・方べきの定理	
	12	中間考査			

3 評価の観点

知識・技能	数と式，2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率及び図形の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。また，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数と式，2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率及び図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数と式，2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率及び図形の性質に関心をもつとともに，それらを事象の考査に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とします。

5 担当者からのメッセージ

(確かな学力を身に付けるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

本講座は既習内容を確認しながら，より発展的な内容を扱うことで実践力を身につけていきます。予習と復習を大切にしてください。特に解けなかった問題の復習や類題を解くことは徹底的に行ってください。問題を解き終わったときには，その問題のポイントをメモしておきましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 EFG組
教科書	数学Ⅱ・数学B・数学C(数研出版)	副教材等	ベストセクション大学入学共通テスト2027 数学 重要問題集

1 学習の到達目標

数学Ⅱ・数学B・数学Cについて既習内容を確認しながら、理解をさらに深め、総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を養う。

- 1 数学Ⅱ・B・Cについて必要事項を補い、総合的に理解を深める。
- 2 数学の基礎力を固め、入試の形態に対応できる実践力をつける。
- 3 論理的に思考し、問題を解決する能力をつける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅱ 式と証明 複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・式と計算 ・複素数と方程式 	数学Ⅱ・B・Cの内容を、教科書の重要事項を振り返りながら復習し、問題演習を行う。共通テスト形式の問題集を利用することで各問の出題の意図・誘導の通りに的確に解答が導けるようにする。 「式と証明」「複素数と方程式」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知)
	5	図形と方程式 数学B 数列 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・円と直線 ・軌跡と領域 ・いろいろな数列 ・数学的帰納法と漸化式 	「図形と方程式」に関して ・解と係数の関係 ・高次方程式 「数列」に関して ・漸化式で定義された数列の一般項 ・数学的帰納法	
	6	数学Ⅱ 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> ・加法定理 ・方程式・不等式, 最大・最小 	「三角関数」に関して ・三角関数のグラフ ・三角方程式・三角不等式 ・三角関数の合成 ・三角関数の最大値・最小値	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知)
	7	指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・指数関数 ・対数関数 ・方程式・不等式 ・最大値・最小値 	「指数関数・対数関数」に関して ・指数方程式・対数方程式 ・桁数・小数首位 ・指数関数・対数関数の最大値・最小値	
	9	数学B 統計的な推測 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・確率分布 ・統計的推測 	「統計的な推測」に関して ・二項分布・正規分布 ・推定・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(主・思・知) ・提出物(主)

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	数学Ⅱ 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数・導関数 ・微分法の応用 ・接線の方程式 ・積分の計算 ・面積 	「微分法・積分法」に関して <ul style="list-style-type: none"> ・接線の方程式 ・方程式の解の個数 ・定積分 ・面積の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知)
	11	数学C ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・和と実数倍 ・内積の計算 ・空間ベクトル 	「ベクトル」に関して <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの成分と内積 ・三角形の重心, 内心 ・交点の位置ベクトル 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(主・思・知) ・提出物(主)
	12	実践演習 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数 ・図形と方程式 ・指数関数・対数関数 ・微分法・積分法 ・数列 	年間の学習内容の振り返り・実践演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	数列, 統計的な推測, ベクトル, いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。また, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数列, 統計的な推測, ベクトル, いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考え方における数学的な見方や考え方を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数列, 統計的な推測, ベクトル, いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに, それらを事象の考査に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し, 年間の学習成績とします。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

本講座は既習内容を確認しながら, より発展的な内容を扱うことで実践力を身につけていきます。予習と復習を大切にしてください。特に解けなかった問題の復習や類題を解くことは徹底的に行ってください。問題を解き終わったときには, その問題のポイントをメモしておきましょう。ただ公式や問題の解き方を暗記するのではなく, 1つ1つの内容を理解するよう努め, 欠席した場合やよく理解できなかった箇所はそのままにせず友人や先生に聞くように心掛けてください。

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 D組
教科書	数学Ⅰ・数学A・ 数学Ⅱ・数学B (数研出版)	副教材等	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C (Z会)

1 学習の到達目標

<p>数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ及び数学Bについて既習内容を確認しながら，理解をさらに深め，総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，処理する能力を養う。</p> <p>1 数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ及び数学Bについて必要事項を補い，総合的に理解を深める。</p> <p>2 数学の基礎力を固め，大学等の入試に対応できる実践力を身に付ける。</p> <p>3 論理的に思考し，問題を解決する能力を身に付ける。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1章 方程式と不等式 (数学Ⅰ)	式の計算，実数，絶対値， 1次不等式，2次方程式	数学Ⅰ及び数学Ⅱの内容を，教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し，より発展的な学習を行う。 (特に重点的に学習する内容) 「方程式と不等式」に関して 対称式の値 絶対値を含む方程式・不等式 係数に文字を含む方程式・不等式 不等式を満たす整数の個数 「集合と論理」に関して 命題の真偽と必要条件・十分条件 対偶の利用・背理法による命題の証明 「式と証明・高次方程式」に関して 相加平均と相乗平均の関係 2次方程式の解と係数の関係 剰余に関する問題 高次方程式の虚数解 1の虚数の累乗根の性質 「図形と方程式」に関して 点と直線の距離の公式の利用 2つの図形の交点を通る図形の方程式 媒介変数と軌跡 領域を用いた命題の真偽の判定 「2次関数」に関して 定義域に制限のある2次関数の最大・最小 方程式・不等式の解と関数のグラフの関係 2次方程式の解の存在範囲 絶対値を含む2次式で表される関数の考察	・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知)	
		第2章 集合と論理 (数学Ⅰ)	集合，命題と論証			
	5	第8章 式と証明・ 高次方程式 (数学Ⅱ)	整式の除法，分式，恒等式， 相加平均と相乗平均の関係， 複素数，2次方程式とその解， 剰余の定理・因数定理，高次方程式			
		第9章 図形と方程式 (数学Ⅱ)	直線の方程式，円の方程式， 円と直線の関係，軌跡，領域			
		第4章 2次関数 (数学Ⅰ)	2次関数のグラフ，2次関数の最大・最小，2次不等式	中間考査		
前期	6	第7章 場合の数と確率 (数学A)	順列・組合せ，和事象・余事象の確率， 独立な試行・反復試行の確率， 条件付き確率，期待値	数学Ⅰ，数学A及び数学Ⅱの内容を，教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し，より発展的な学習を行う。 (特に重点的に学習する内容) 「場合の数と確率」に関して 同じものを含む順列・組分けの問題 重複組合せとその応用 条件付き確率 期待値 「図形と計量」に関して 三角形とその内接円や外接円に関する問題 多角形の計量 空間図形の計量 「図形の性質」に関して チェバの定理・メネラウスの定理 方べきの定理 「三角関数」に関して 周期関数の周期 三角関数の合成 三角関数を含む方程式・不等式 三角関数を含む関数の最大値・最小値	・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知)	
		第3章 図形と計量 (数学Ⅰ)	三角比の相互関係，正弦定理・余弦定理， 三角形の面積，多角形の計量， 空間図形の計量			
	7	第6章 図形の性質 (数学A)	三角形の成立条件， 三角形の重心・外心・内心， チェバの定理・メネラウスの定理， 円に内接する四角形， 円と接線，方べきの定理			
		8 9	第11章 三角関数 (数学Ⅱ)	三角関数の相互関係， 三角関数のグラフ， 三角関数の加法定理， 2倍角・3倍角・半角の公式， 三角関数の合成， 三角関数を含む方程式・不等式・関数	期末考査	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第10章 指数関数・ 対数関数 (数学Ⅱ)	累乗根, 指数法則, 指数関数とそのグラフ, 対数の性質, 対数関数とそのグラフ, 指数と対数の関係, 指数・対数を含む方程式・不等式・関数, 常用対数	数学Ⅰ, 数学Ⅱ及び数学Bの内容を, 教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し, より発展的な学習を行う。 (特に重点的に学習する内容) 「指数関数・対数関数」に関して 指数と対数の関係 指数・対数を含む方程式・不等式 指数・対数を含む関数の最大値・最小値 常用対数の利用 「微分・積分」に関して 3次関数のグラフの性質 高次方程式の異なる実数解の個数 定積分で表された関数 曲線や直線で囲まれた図形の面積	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知)
		第12章 微分・積分 (数学Ⅱ)	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 高次関数のグラフと高次方程式・不等式の解, 不定積分, 定積分と面積	「数列」に関して 群数列とその応用 いろいろな隣接2項間漸化式の解法 確率と漸化式 「データの分析」に関して 箱ひげ図・散布図からのデータの傾向の把握 データの相関 「統計的な推測」に関して 二項分布の正規分布による近似 母平均・母比率の推定 仮説検定	
	11	第13章 数列 (数学B)	等差数列・等比数列とその和, 和の記号 Σ , いろいろな数列の和, 階差数列, 漸化式		
	第5章 データの分析 (数学Ⅰ)	代表値, 四分位数と箱ひげ図, 外れ値, 分散・標準偏差, 相関係数, 仮説検定の考え方			
12	第14章 統計的な推測 (数学B)	確率分布, 確率変数の期待値と分散, 確率変数の変換, 二項分布, 正規分布, 推定, 仮説検定			
		総合演習	大学入学共通テスト及び個別試験に向けての総合演習	大学入学共通テスト, 国公立大学の2次試験及び私立大学の個別試験に向けての総合演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知)

3 評価の観点

知識・技能	方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。また, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測に関心をもつとともに, それらを事象の考査に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し, 年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

「総合数学」では, 主として大学入学共通テスト形式の問題を通して, 基本についての復習をしながら, 応用力を身に付けていきます。
3年生はこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通してから授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか, どこでつまづいたのかがわかり, 授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また, 1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして, 授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

単位数	4単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	数学Ⅲ, 数学C (数研出版)	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C (数研出版)

1 学習の到達目標

数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを的確に活用する態度を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	取り扱う関数を分数関数や無理関数に広げて関数概念の理解を一層深め、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察できるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解し、多項式関数、分数関数や無理関数などを用いて、合成関数や逆関数の求め方を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	5	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 4. 関数の極限 5. 三角関数と極限 6. 関数の連続性	数列の極限について、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求められる方法を考察できるようにする。また、無限等比級数の収束、発散についても理解する。多項式関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の関数値の極限を求めることができるようにする。また、関連して関数の連続性について理解する。	
		第5章 微分法	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数	微分の公式を発展させ、和、差、積、商及び合成関数、逆関数の微分法を理解できるようにする。多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解する。	
			中間考査		
	6	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	4. 第n次導関数 5. 関数のいろいろな表し方と導関数 1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数の最大と最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式、不等式への応用	さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいったりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	7	第2節 速度と近似式	7. 速度と加速度 8. 近似式	微分法の有用性を認識できるよう、微分法を速度・加速度などの考察に活用できるようにする。	
	9		期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 積分法 第1節 不定積分	1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分	積分法の基本的な性質や置換積分法及び部分積分法について理解できるようにする。また、微分法の公式からいろいろな関数の不定積分の公式を導き、不定積分を求め方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
		第2節 定積分	5. 定積分とその基本性質 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 定積分で表された関数	いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。	
	11	第6章 積分法の応用	1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	積分法の有用性を認識し、図形の内積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。	
		数学C 第3章 複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式と乗法、除法 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 円と分点	複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにし、図形の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考察する力を養う。	
		第4章 式と曲線	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータと いろいろな曲	幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的方法についての理解を深める。 曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解できるようにし、それらを具体的な事象の考察に活用する力を養う。	
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはず。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

令和8年度 理数科 「理数数学特論」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	数学Ⅲ, 数学C (数研出版)	副教材等	チャート式 新課程 数学Ⅲ+C (数研出版)

1 学習の到達目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり身に付ける</p> <p>(1) ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	1 平面上のベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 ベクトル方程式	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。 ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	5	第2章 空間のベクトル	1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 座標空間における図形	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。	
	6		中間考査		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	7	第5章 数学的な表現の工夫	2 行列による表現	日常の事象や社会の事象などを行列を用いて工夫して表現することの意義について理解するとともに、それらを積極的に活用して事象を考察する姿勢を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	9		期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	11				<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	12		中間考査		
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)

3 評価の観点

知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

令和8年度 理数科 「探究数学」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、 数学B、数学C（数研出版）	副教材等	入試必修問題集 精練 1stEdition 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B +数学C（ベクトル）（啓林館/河合塾）

1 学習の到達目標

1 数学C「ベクトル」について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深める。
2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bについて必要事項を補い、総合的に理解を深める。
3 数学の基礎力を固め、入試に対応できる実践力を身につける。
4 論理的に思考し、問題を解決する能力を身につける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算	1 平面上のベクトル	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
			2 ベクトルの演算		
	5	第2節 ベクトルと平面図形	3 ベクトルの成分	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。	
			4 ベクトルの内積		
	6	第2章 空間のベクトル	5 位置ベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。	
			6 ベクトルと図形		
	7	数学Ⅰ 第1章 方程式と不等式	7 座標空間における図形	数学Ⅰ・A・Ⅱの内容を、教科書の重要事項を振り返りながらひとつおりの復習する。 (特に重点的に復習する内容) 「方程式と不等式」に関して ・絶対値を含む方程式・不等式 ・不等式を満たす整数の個数 「集合と論理」に関して ・必要条件・十分条件に関する問題	
			2 次関数のグラフ、2次関数の最大と最小、2次方程式、2次不等式		
	7	第4章 図形と計量	3 ベクトルの成分	「2次関数」に関して ・定義域に制限のある2次関数の最大・最小 ・2次関数のグラフとx軸の共有点 「図形と計量」に関して ・三角形の内接円に関する問題 「データの分析」に関して ・箱ひげ図 ・相関係数	
			4 ベクトルの内積		
7	第5章 データの分析	5 位置ベクトル	「場合の数と確率」に関して ・同じものを含む順列・組分けの問題 ・条件つき確率		
		6 ベクトルと図形			
7	第1章 場合の数と確率	7 座標空間における図形	「図形の性質」に関して ・チェバの定理、メネラウスの定理		
		代表値、四分位範囲、分散と標準偏差、相関係数、仮説検定の考え方			
7	第2章 図形の性質	代表値、四分位範囲、分散と標準偏差、相関係数、仮説検定の考え方	「場合の数と確率」に関して ・同じものを含む順列・組分けの問題 ・条件つき確率		
		順列・組合せ、和事象・余事象の確率、独立試行、反復試行、条件つき確率			
7	第2章 図形の性質	三角形の重心・外心・内心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と接線、方べきの定理	「図形の性質」に関して ・チェバの定理、メネラウスの定理		
		三角形の重心・外心・内心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と接線、方べきの定理			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	8	数学Ⅱ 第1章 式と証明	整式の除法、分数式、恒等式、相加平均と相乗平均の関係	(特に重点的に復習する内容) 「式と証明」に関して ・相加平均と相乗平均の関係 ・2次方程式の解と係数の関係に関する問題	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	9	第2章 複素数と方程式	複素数、2次方程式の解、剰余の定理、因数定理、高次方程式 期末考査	「高次方程式」に関して ・剰余の定理を用いる余りの問題 ・高次方程式の虚数解	
後期	10	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式	直線の方程式、円の方程式、円と直線、軌跡、領域	数学Ⅱ・Bの内容を、教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習する。 (特に重点的に復習する内容) 「図形と方程式」に関して ・点と直線の距離の公式を用いる問題 ・軌跡 「三角関数」に関して ・三角方程式・三角不等式 ・三角関数を含む関数の最大値・最小値 「指数関数・対数関数」に関して ・指数方程式・指数不等式 ・対数方程式・対数不等式 ・指数関数や対数関数を含む関数の最大値・最小値 「微分・積分」に関して ・3次方程式の異なる実数解の個数 ・曲線や直線で囲まれた図形の面積	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知) 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
		第4章 三角関数	三角関数の関係式、三角関数のグラフ、加法定理、2倍角の公式・半角の公式、三角関数の合成、三角方程式・三角不等式		
		第5章 指数関数・対数関数	累乗根・指数法則、指数関数のグラフ、指数方程式・指数不等式、対数の性質、対数関数のグラフ、対数方程式・対数不等式、常用対数		
	11	第6章 微分法と積分法	微分係数と導関数、関数の値の変化、不定積分、定積分と面積	「数列」に関して ・漸化式 ・群数列に関する問題 「統計的な推測」に関して ・確率分布について ・統計的な推測について	
		数学B 第1章 数列	等差数列・等比数列とその和、和の記号 Σ 、いろいろな数列の和、階差数列、漸化式		
	12	第2章 統計的な推測	母集団と標本、標本平均とその分布、推定、仮説検定		
	1	総合演習	中間考査	大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cの各単元の基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの既習事項について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電流と磁場 ・電磁誘導と交流	・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力 ・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生 ・電磁波	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し、電流がつくる磁場の強さと磁場の概形について理解する。 ・ローレンツ力について学習し、磁場中に入射した粒子の運動を理解する。 ・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・交流の発生のおしきみを理解し、交流回路における抵抗、コイル、コンデンサーの特性を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	11	・電子と光	・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性	・光電効果とその特徴を学習し、光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子の考えによって、光電効果を理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し、エネルギー保存の法則や、運動量保存の法則を用いて、コンプトン効果を定量的に理解する。 ・物質波について学習し、粒子性と波動性の二重性を理解する。	
	12	・原子と原子核	・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子 中間考査	・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について、式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1		・力学 ・波動 ・電磁気学 ・原子	・入試に向け、問題演習を通して物理全体の理解を深める。	

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、技能、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前だけの演習では不十分である。
- ・疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。
- ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。

令和8年度 理科「化学」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科・3年・D（Ⅱ類型）EFG（Ⅲ類型）組 G（SSHコース）組
教科書	高等学校化学（第一学習社）	副教材等	セミナー化学（第一学習社） レットライノートVol.3「無機物質」（東京書籍） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）

1 学習の到達目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	<ul style="list-style-type: none"> ・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表されることを理解する。 ・反応速度と濃度との関係を理解する。 ・反応速度と温度との関係を理解する。 ・触媒の働きとその利用を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	5	第4節 化学平衡	①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動	<ul style="list-style-type: none"> ・可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味を理解する。 ・平衡定数の意味を理解する。 ・化学平衡の移動について、ルシャトリエの原理を中心に理解する。 	
		第5節 電離平衡	①電離平衡と電離定数 ②電離定数とpH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ⑤溶解度積	<ul style="list-style-type: none"> ・弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解する。 ・pHについての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。 ・塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。 ・緩衝液とその作用を理解する。 ・溶解度積を理解する。 	
	6		中間考査		
		第Ⅲ章 無機物質 第3節 典型金属元素	①1族元素 ②2族元素 ③両性を示す典型金属	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ金属とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・2族元素とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・アルミニウムやスズ、鉛とその化合物について、性質や用途を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		第4節 遷移元素	①遷移元素 ②鉄 ③銅 ④銀 ⑤亜鉛 ⑥クロムとマンガン ⑦金属イオンの定性分析	<ul style="list-style-type: none"> ・遷移元素について、その特徴や性質などを理解する。 ・鉄とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・銅とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・銀とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・亜鉛とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・クロムやマンガンとその化合物について、性質や用途を理解する。 ・金属イオンの定性分析について理解する。 	
	7	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴 第2節 脂肪酸炭化水素	①特徴と分類 ②構造式の決定 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 ・飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 	

	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン	・アルコール、エーテルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・アルデヒド、ケトンの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。	
8		③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン	・カルボン酸、エステルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・油脂、セッケンの性質を、その構造と関連付けて理解する。	
9		期末考査		
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	第4節 芳香族化合物	①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離	・芳香族炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・フェノール類、芳香族カルボン酸の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族アミン、アゾ化合物の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の分離を化合物の性質にもとづいて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	第V章 高分子化合物			
	第1節 高分子化合物	①高分子化合物の特徴	・高分子化合物の特徴を理解する。	
11	第2節 天然高分子化合物	①単糖・二糖 ②多糖 ③アミノ酸 ④タンパク質 ⑤核酸	・単糖、二糖について、その構造や性質を理解する。 ・多糖について、その構造や性質を理解する。 ・再生繊維と半合成繊維について、その合成や性質を理解する。 ・ α -アミノ酸について、その性質や構造を理解する。 ・タンパク質について、その構造や性質を理解する。 ・核酸について、その構造や働きを理解する。	
	第3節 合成高分子化合物	①合成高分子化合物の特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム	・合成高分子化合物の特徴や分類を理解する。 ・合成繊維について、その構造や性質、用途を理解する。 ・合成樹脂について、その構造や性質、用途を理解する。 ・機能性高分子について、その構造や性質、用途などを理解する。 ・天然ゴムと合成ゴムについて、その構造や性質、用途などを理解する。	
12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノート(授業プリント)の記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていないかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 EG組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社） アクセスノート生物（実教出版）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第3章 細胞と分子	①生体物質と細胞 ②タンパク質の構造と性質 ③生命現象とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する物質について学習します。 細胞骨格と細胞小器官について学習します。 アミノ酸とペプチド結合、タンパク質の構造と機能について学習します。 酵素反応の速度や阻害について考察します。 生体膜について学習します。 	実験等レポート 授業内提出物 前期末考査
	5	第4章 代謝	①代謝とエネルギー ③異化 ②炭酸同化	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸のしくみ全般について学習します。 発酵、特にアルコール発酵について考察します。 光合成のしくみ全般について学習します。 光合成色素について学習します。 細菌の光合成について、また様々な細菌のエネルギー利用を学習します。 	
	6	第1章 生物の進化	①生命の起源と細胞の進化 ②遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ③進化のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 原始地球とその環境、化学進化について考えます。 減数分裂と染色体の組み合わせ、組換えと組換え価について考えます。 遺伝子頻度とハーディー・ワインベルグの法則について考察します。中立進化や適応進化などの概念を学習します。 	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
7	第2章 生物の系統と進化 第8章 動物の反応と行動	①生物の系統 ②人類の系統と進化 ②動物の行動 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 系統関係の推定を行います。分子系統樹をはじめ、様々な系統樹と生物の系統について学習します。 霊長類の進化について学習します。 生得的行動と習得的行動について学習します。特に、様々な習得的行動について学習します。 		
9		第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの複製 ②遺伝子の発現 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造や複製様式について学習します。 真核生物と原核生物の転写及び翻訳について学習し、それぞれの違いについて考察します。 	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第10章 生態系のしくみと人間の関わり	①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費 ③生態系と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 個体群内のさまざまな相互作用について学習します。 個体群間のさまざまな相互作用について学習します。 物質生産や物質収支を通してエネルギーの流れについて学習します。特に窒素の循環について考えます。 	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
		第6章 遺伝情報の発現調節と発生	①遺伝子の発現調節 ②発生と遺伝子の発現	<ul style="list-style-type: none"> 原核生物と真核生物の遺伝子の発現調節について学習します。 配偶子形成と受精について学習します。 母性因子とホメオティック遺伝子について学習します。 カエルの発生について学習します。 誘導と誘導の連鎖について学習します。 	

11	第7章 遺伝子を扱う技術 とその応用	①遺伝子を扱う技術 ②遺伝子を扱う技術の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・クローニング, PCR, 電気泳動, DNAシーケンス等の遺伝子を扱う技術や解析方法について考えます。 ・遺伝子を扱う際の課題について考察します。
	第8章 動物の反応と行動	①刺激の受容と反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロンのしくみについて学習します。 ・眼や耳などの受容器について学習します。 ・脳の構造と機能, 反射について学習します。 ・筋肉の構造と筋収縮のしくみについて学習します。
12	第9章 植物の成長と環境 応答	①植物と環境 ②植物の一生と植物ホルモ ン 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・植物ホルモンについて学習します。 ・発芽, 成長, 花芽形成, 果実の成熟など植物の一生を通じたホルモンの関連について考察します。 <p>大学入学共通テストや入試問題に対する実践的な演習を行います。</p>
1			
2			
3			

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。
定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。
評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかること。
進度が早いので、自分なりに努力することが必要だと考えます。授業前に予習ができるとう理解が早いです。なるべく問題にあたって、解く力を身につけましょう。内容を深く扱うので、何が大事なことなのか自分なりに精査しましょう。

令和8年度 理科 「物理研究」 シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 D, E, F, G組
教科書	物理 (実教出版)	副教材等	セミナー 物理基礎・物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・運動とエネルギー	・運動とエネルギー ・平面運動と剛体のつり合い	・物理基礎で学んだ「力と運動」の考え方を平面に拡張する。また回転運動を取り入れた物体の運動を学習する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	5	・運動量の保存	・運動量の保存	・運動量を理解し，物体が衝突や分裂する場合の運動を理解する。	
	6	・円運動と単振動	・円運動と単振動 ・万有引力について理解する。	観測者が加速度運動している場合の，物体の運動を理解する。 周期的な運動について理解する。 万有引力について理解する。	
			中間考査		
	7	・気体の性質と分子の運動	・物質の状態変化を，原子や分子の運動として取り扱う	・物質の状態変化を，原子や分子の運動として取り扱う。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
		・光波	・光の性質や様々な現象について理解する	・波の復習をする。その応用として，光について学習する。 ・光の性質や様々な現象について理解する。	
	9	・電場と電位	・電場中の荷電粒子の動きや簡単な電流回路について理解する	・電場中の荷電粒子の動きや簡単な電流回路について理解する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電流 ・電流と磁場	・電流 ・電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> 電流を電場中の荷電粒子の流れとして捉え、電流と磁場の関係を取り扱う。 交流について学習する。 電磁気の総まとめとして電磁誘導を学習し、電磁波を取り扱う。 	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	11				
12					
			中間考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	・原子と原子核	<ul style="list-style-type: none"> 原子 電子と光 原子と原子核 問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> 電子の性質や光の粒子性、粒子の波動性など、量子力学の基礎概念を学び、原子核とエネルギーを取り扱う。 入試問題に即した形で問題演習を行う。 	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<ul style="list-style-type: none"> 日々の復習をしっかりと実施し、分からない所を出来るだけ早く無くす努力をして下さい。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。 繰り返し演習することで、理解が深まります。しっかりと授業で解いていた生徒は、良い結果が出ています。 物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。
--

令和8年度 理科 「化学基礎研究」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 e選択者
教科書	第一学習社 高等学校 化学基礎	副教材等	数研出版 チェック&演習 化学基礎 実教出版 サイエンスビュー 化学総合資料

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学習する。また、物質の三態変化が熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。	授業中の取り組み 提出された課題 定期考査の点数 小テストの点数など
		第2節 原子の構造と元素の周期表	①原子の構造 ②元素の相互関係	・元素について学習し、同素体の存在を理解する。 ・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。	
	5	第3節 物質と化学結合	①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④共有結合の結晶 ⑤分子からなる物質の利用 ⑥金属と金属結合 ⑦結晶の比較	・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶、イオン結晶の利用を理解する。 ・分子の形成について学習し、分子からできる物質、さらに分子結晶、共有結晶について理解する。また、分子からなる物質の利用についても学習する。 ・金属結合、金属結晶について理解し、金属の利用を学習する。 ・化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解する。 ・結晶の比較について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	
			中間考査		
	6	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式	①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・状態変化と化学変化の違いを理解し、化学反応式のつくり方を理解する。	
	7		⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	・化学反応における量的関係について理解する。 ・化学反応における基本法則を学ぶ。	
	9		期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2節 酸と塩基の反応	①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の種類を学習する。 中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 	授業中の取り組み 提出された課題 定期考査の点数 小テストの点数など
	11	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解する。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。 	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

予習や復習として問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図りましょう。

令和8年度 理科 「化学研究β」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 d、e選択者
教科書	第一学習社 高等学校 化学	副教材等	実教サイエンスビュー 化学総合資料 数研 チェック&演習 化学

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通じて、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技術を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	I 章 物質の状態 第1節 化学結合と結晶 第2節 物質の三態 第3節 気体の性質 第4節 溶液の性質	化学結合と結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解します。 ・ ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則また、気体の状態方程式を理解し、その応用を学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 ・ 理想気体と実在の気体との違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 発問評価 ・ ノート提出 ・ 実験レポート ・ 小テスト 	
			物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溶液について沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取扱いを学習する。 ・ コロイドを理解し、その溶液の性質を学習する。 		
			気液平衡 気体の体積 状態方程式・実在気体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学反応の速さには違いがあり、速さを支配する要素について学習する。反応速度の表し方を学習し、条件によって反応速度がどのように変化するか理解する。 ・ 化学平衡の概念、平衡移動の原理を学習し、化学平衡の知識がどのように活用されているかを理解する。 		
			希薄溶液の性質、コロイド			
	5	5	II 章 物質の変化と平衡 第1節 物質とエネルギー 第2節 電池・電気分解 第3節 反応の速さ 第4節 化学平衡	反応熱		
				電池・電気分解	反応の速さ、平衡	
6	7	III 章 無機物質 第1節 非金属元素の単体とその化合物 第2節 典型元素の単体とその化合物 第3節 遷移元素の単体とその化合物 第4節 無機物質と人間生活	元素の分類 ハロゲン 酸素、硫黄 窒素、リン 炭素、ケイ素	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハロゲンとその化合物について、性質や用途を学習する。 ・ 酸素・硫黄とその化合物について、性質や用途を学習する。 ・ 窒素、リンとその化合物について、性質や用途を学習する。 ・ 炭素、ケイ素とその化合物について、性質や用途を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 発問評価 ・ ノート提出 ・ 実験レポート ・ 小テスト 	
			アルカリ、アルカリ土類 金属典型元素の金属	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無機物質の性質や反応に関する事物・現象に関心を持ち、それらに関する基本的な概念や法則を意欲的理解し演習する。無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点でとらえ、科学的に考察、判断できるようにし、演習を通して定着を図る。 		
			遷移元素			
			金属の利用 セラミックスの利用			
	9		期末考査			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造	①特徴と分類 ②化学式の決定 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の化学式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 ・アルカン、シクロアルカン、アルケン、シクロアルケン、アルキンについて、その性質や用途を学習する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	11	第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン ①芳香族炭化水素 ②単糖と二糖類 ③アミノ酸	・アルコール、エーテル・アルデヒド、ケトンについて、その性質や用途を学習する。 ・カルボン酸、エステル・油脂、セッケン・芳香族炭化水素について、その性質や用途を学習する。 ・演習で定着を図る。	
	12	V章 高分子化合物 第1属 合成高分子化合物 第2属 天然高分子化合物 第3属 高分子化合物と人間生活	①高分子化合物の構成 ②合成樹脂 ③合成繊維 ①デンプンとセルロース ②タンパク質 ③天然繊維と天然ゴム ④核酸 中間考査	・高分子化合物について、その分類や重合の種類を学習する。具体的に合成樹脂と合成繊維/デンプンとセルロース/天然繊維と天然ゴム/タンパク質やDNA、RNA・機能性高分子/合成ゴムについて、その構造や性質、用途などを学習する。 ・演習で定着を図る。	

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

<p>下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。</p> <p>(1)授業への取組 授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。</p> <p>(2)ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。</p> <p>(3)観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が大きい。</p> <p>(4)教科書・問題集の問題 各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。</p> <p>(5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。 評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。</p>

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。</p> <p>2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。</p> <p>3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。</p>
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年 ABCD組
教科書	高等学校 生物基礎 (第一学習社)	副教材等	ニューステージ 生物図表 (浜島書店) 問題タイプ別大学入学共通テスト生物基礎 (実教出版)

1 学習の到達目標

科学や科学現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，科学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第4章 植生と遷移	①植生と環境の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 叢の強さと光合成速度の関係を，グラフを通じて理解する。 	提出物， 定期考査， 実験レポート
		1. 植生と遷移	②遷移のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 植生は不変ではなく，遷移していることを理解する。 	
2. バイオーム	①遷移とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場所に適応した植物が生育し，いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 			
第5章 生態系とその保全	①生態系の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 地球上には，陸上以外にもさまざまな生態系がみられることを理解する。 			
1. 生態系と生物の多様性	②生態系における生物どうしの関わり	<ul style="list-style-type: none"> 生物は，食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。 			
2. 生態系のバランスと保全	①生態系の変動と安定性	<ul style="list-style-type: none"> 生物の個体数や量は，常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 			
	②人間活動による生態系への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 			
5	第1章 生物の特徴	①生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には，多種多様な生物が生息しており，生物は多様であることを理解する。 すべての生物のからだは細胞からなることを見だし，生物が共通にもつ特徴を理解する。 		
		②生物の共通性の由来	<ul style="list-style-type: none"> 生物に共通してみられる特徴は，進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであると考察できる。 原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また，真核細胞において，細胞小器官の機能の概要を理解する。 		
		中間考査			
	6	2. 生物とエネルギー	①生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 	
			②代謝とATP	<ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること，また，代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 光合成は，光エネルギーによってATPをつくり，このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 呼吸は，酵素の働きによって有機物が段階的に分解されて，ATPがつけられる過程であることを理解する。 	
			③代謝と酵素	<ul style="list-style-type: none"> 酵素の基本的な特徴について理解する。 	
	7	第2章 遺伝子とその働き			

		1. 遺伝子の本体と構造	①遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> DNAの基本的な構造を理解する。 塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 	提出物, 定期考査, 実験レポート
	9	2. 遺伝情報とタンパク質	②DNAの複製と分配 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 3つの塩基の並びが1つのアミノ酸に対応していることを理解する。 DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解する。 空遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。 	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持	①恒常性と神経系	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 	提出物, 定期考査, 実験レポート
			②恒常性と内分泌系	<ul style="list-style-type: none"> 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。 	
	11	2. 免疫	③体内環境を調節するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 血糖濃度と自律神経系および内分泌系の関わりについて気づき、血糖濃度調節のしくみについて理解する。 	
			①生体防御 ②自然免疫 ③獲得免疫	<ul style="list-style-type: none"> 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 自然免疫のしくみを理解する。 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。 	
	12		④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活 中間考査 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 	

3 評価の観点

知識・技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。
定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。
評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

基礎生物で扱う多くのテーマは私たちの生活の中で見られる事柄と関連しており、さらに私たち自身が生命活動を行うにあたり、身体の中でどのようなことが起きているのかなど、分子 (DNA) レベルから学んでいきます。
授業を通して、あなたたち自身のこれまでの経験や知識を関連付けながら、より専門的な理解を深めて専門知識を定着させていきましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年 DG組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ 生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり学習することを目指す。

(1) 生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 生物の進化	①生命の起源と細胞の進化 ②遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ③進化のしくみ	遺伝子頻度が集団内で変化することを実験を用いて理解します。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5	第3章 細胞と分子	①生体物質と細胞 ②タンパク質の構造と性質 中間考査	細胞の観察を通して細胞の共通性等を理解します。 酵素の実験を通して酵素の性質を理解します。	
	6 7 9	第4章 代謝	①代謝とエネルギー ②炭酸同化 ③異化 期末考査	緑葉に含まれる光合成色素を分離し、分離された色素の色とRf値から色素の種類を推測します。 酵母を用いた実験により、アルコール発酵を理解します。	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第10章 生態系のしくみと人間の関わり	②個体群の変動と維持	アズキゾウムシを用いた実験により、密度効果を理解します。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子を扱う技術	遺伝子組換え実験により、遺伝子を扱う技術を理解します。	
	12		中間考査		
	1		総合演習	思考問題を中心とした問題演習を行います。	

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。
定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。
評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかりましょう。
実験は積極的に取り組み、結果をきちんとまとめ、自分で考えたことや調べたことを記述したレポートを作成し提出してください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 A, B, C, D組 (選択者)
教科書	啓林館 高等学校 地学基礎	副教材等	実教出版 ベストフィット地学基礎 新課程

1 学習の到達目標

地学基礎の授業を踏まえた問題演習や課題の取り組みを通じて、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を定着させ、理解を深める。用語や法則の暗記にとどまらず、それらを自分の言葉で説明できる。共通テストで必要とされる資料分析力、思考力を身につける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 1節 地球の概観	・地球の形状	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の大きさと形状、地球の内部構造について、密度もしくは質量を軸として理解する。 ・問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論 ・問題演習
			・地球内部の構造		
	5	第2章 活動する地球 1節 プレートテクトニクスと地球の活動 2節 地震	<ul style="list-style-type: none"> ・プレートテクトニクス ・地震の発生機構 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 ・課題 (レポート作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
	6	3節 火山活動と火成岩の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・火山活動の仕組み ・火成岩の形成と鉱物 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱を軸として、大気の大気圏や大気圏内で見られる現象について理解する。 ・雲の発生と降水の仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論 ・問題演習
	7	第2部 大気と海洋 第1章 大気の大気圏 1節 大気圏 2節 水と気象	<ul style="list-style-type: none"> ・大気圏の構造 ・オゾン層とオゾンホール ・相対湿度 ・雲の発生 ・降水の仕組み 		
	9	第2章 太陽放射と大気海洋の運動 1節 地球のエネルギー収支 2節 大気の大循環	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽放射と地球放射 ・温室効果 ・熱輸送と大気循環 ・偏西風 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー収支の考え方と、温室効果が地球環境にもたらす影響を理解する。 ・地球のエネルギー収支において大気果たす役割を理解する。 ・問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 ・議論 ・課題
			期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3節 海水の循環	<ul style="list-style-type: none"> 海水の構造 深層循環 	<ul style="list-style-type: none"> 地球のエネルギー収支において海洋が果たす役割を理解する。 地球のエネルギー収支において大気および海洋の循環が果たす役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習 議論 課題
		第3章 移り変わる地球			
		第1章 地球の誕生			
	11	1節 宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙のはじまり 太陽の誕生 	<ul style="list-style-type: none"> 質量や距離、熱に注目して宇宙に関する事項を理解する。 	
		2節 太陽系の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の誕生 太陽系天体 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の構造やそれを構成する天体について理解し、地球の成り立ちと特徴を理解する。 	
		第2章 地球と生命の進化			
		1節 先カンブリア時代	<ul style="list-style-type: none"> 地球のなりたち 生命の誕生 	<ul style="list-style-type: none"> 生物界や地球環境の変遷と地質時代の区分や時間スケールを理解する。 	
	12	2節 顕生代	<ul style="list-style-type: none"> 生命の進化 人類の誕生 		
		中間考査			
		第3章 地球史の読み方	<ul style="list-style-type: none"> 堆積構造 堆積岩 地層の読み方 	<ul style="list-style-type: none"> 地球表層の地形や地層を観察する方法を学ぶとともに、それらの形成過程を理解する。 地層の観察と化石の分析によって、古環境の復元や地殻変動の経緯の推定を行う方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境に関する概念や法則を理解し、より深い知識を身につけることで問題に対応している。地球や地球を取り巻く環境に関する事象を観察、分析するための基本的な操作を習得し、科学的に探究している。
思考・判断・表現	科学的な思考に基づいて問題を考察している。自らの考察を平易な言葉で伝えながら議論を行い、その結果を簡潔に記述している。
主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に関する既知の概念や法則を活用して、積極的に問題解決に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

地学基礎の復習も交えつつ、発展的な問題演習に取り組んでいきます。問題演習の内容は知識力を試す問題や計算問題だけではありません。地学的な問題について記述したり議論する場を設けるつもりです。単なる共通テスト対策だと思わずに、思考力や表現力を鍛えて、本当の学力を身につけていきましょう。

令和8年度 理数「理数探究」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・G組 (SSH) 理数科・3年次・H組
教科書	理数探究基礎 (数研出版)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

(2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。

(3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1. ガイダンス 2. 探究講座① (1)課題研究 (2)ポスター作製 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・教科目標を理解する。 ・科学的、数学的に考察し、処理する能力を育てる。 ・実験や論文作成、またはポスター作製を行う。 ・研究内容を相手に伝える技術・表現する技術の修得をする。 ・探究に必要な基礎知識の修得とその応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を明確に理解させる。 ・主体的に課題研究またはポスター作製を選択し、実施する。 ・仮説を立てて検証しながら研究を進める。 ・実験をとおして、科学的に考察・処理する能力を育成する。 	出席状況、学習に取り組む意欲・態度等の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	5				
	6	3. 論文レベルアップ講座			
	7	4. 探究講座② (1)課題研究 (2)ポスター作製 実施			
	9	5. 分野別指導			
後期	10	5. 分野指導	<ul style="list-style-type: none"> ・探究に必要な基礎知識の修得とその応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力をもとに発展・応用的に学問を扱う。 ・実験をとおして、科学的に考察・処理する能力を育成する。 ・英語購読を通して複合的、多角的に探究する。 	出席状況、学習に取り組む意欲・態度、レポート等提出物の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
11					
12					
1					

3 評価の観点

知識・技能	自然や科学技術に関して観察、実験などの探究的な活動を通じて習得した探究の方法を用いる。研究の実施や報告書の作成を通して、研究において独自性が重要であることに気づき、創造的な思考力を培おうとしている。
思考・判断・表現	仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、推論など探究の方法にしたがって研究を進めている。
主体的に学習に取り組む態度	探究の方法を用いて研究を行う過程で、設定した課題を科学的に解決する方法を見いだす能力と態度を培おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

この授業は広い視野に立った物事の理解と研究計画の伸長を目標としています。試験はありませんが、その分、課題(報告書作成・提出を含む)やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め、意欲的かつ積極的に取り組んでください。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

単位数	3	学科・学年・学級	理数科・3年次・H組
教科書	総合物理1(数研出版)・総合物理2(数研出版)	副教材等	セミナー 物理基礎・物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・光	・光の反射・干渉	・光の干渉を学習し，薄膜による干渉，くさび形空気層による干渉などの干渉条件を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	5	・円運動と万有引力	・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	・等速円運動における物体の速さ，角速度，回転数，周期，加速度，はたらく力などの定義，およびこれらの中に成り立つ関係を学習させる。 遠心力は慣性力の一種であることを例題を扱う中で具体的に把握させる。 ・等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。 ・物体にはたらく力が，常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり，その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき，物体の運動は単振動であることを理解させる。 ・ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを，惑星の運動を等速円運動とみなした場合について導き出す過程を示す中で理解させる。	
	6	・電場	・静電気力 ・電場 ・電位 ・物質と電場 ・コンデンサー	・電場の基本的な性質を学習し，電場と電気力線の関係，一様な電場について理解する。 ・電位の基本的な性質を学習し，等電位面と電気力線の関係，静電誘導，誘電分極について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し，平行板コンデンサーの電気容量，誘電体，誘電率について理解する。	
			中間考査		
	7	・電流	・オームの法則 ・直流回路 ・半導体	・電子の運動をもとにした，オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計，電圧計，電池の内部抵抗について理解し，さまざまな回路において，キルヒホッフの第1，2法則を適用する。 ・ホイートストンブリッジや電位差計のしくみを学習し，非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。 ・半導体の性質を学習し，ダイオードやトランジスタの仕組みについて理解する。	
		・電流と磁場	・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し，電流がつくる磁場の強さと磁場の概形について理解する。 ・ローレンツ力について学習し，磁場中に入射した粒子の運動を理解する。	
	9	・電磁誘導と電磁波	・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生 ・電磁波	・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し，磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・交流の発生をしくみを理解し，交流回路における抵抗，コイル，コンデンサーの特性を理解する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電子と光	<ul style="list-style-type: none"> ・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性 	<ul style="list-style-type: none"> ・光電効果とその特徴を学習し、光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子の考えによって、光電効果を理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し、エネルギー保存の法則や、運動量保存の法則を用いて、コンプトン効果を定量的に理解する。 ・物質波について学習し、粒子性と波動性の二重性を理解する。 	
	11				
	12				
			中間考査		
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
1	・原子と原子核	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子 	<ul style="list-style-type: none"> ・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について、式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。 		

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して，観察，実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め，事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，技能，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから，問題集の導入問題，基本例題，基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。
- ・疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。
- ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると，より理解を深めることができる。

令和8年度 理数「理数化学」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・3年・H組
教科書	化学 academia (実教出版)	副教材等	エクセル化学 総合版 (実教出版) サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) Let's Try Note Chemistry Vol.3 (東京書籍)

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。

(3) 化学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
前期	4	第2章 物質の変化と 平衡	①可逆反応と化学平衡 ②化学平衡の移動 ③電解質水溶液の平衡	<ul style="list-style-type: none"> 可逆反応、化学平衡および化学平衡の移動を理解する。 (実験) 化学平衡と濃度・温度の関係 水のイオン積、pH、弱酸、弱塩基の電離平衡、溶解度積について理解する。 (実験) 緩衝作用 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 		
	5	4節 化学平衡				中間考査	
前期	6	第3章 無機物質	①周期表と元素の性質 ①水素と貴ガス ②ハロゲンとその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の単体・化合物の性質や反応について、周期表と関連づけながら理解し、知識を身につける。 (実験) 非金属元素の性質 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 		
	7	1節 元素と周期表 2節 非金属元素				①アルカリ金属 ②アルカリ土類金属	<ul style="list-style-type: none"> 金属元素の単体・化合物の性質や反応について、周期表と関連づけながら理解し、知識を身につける。
	9	3節 典型金属元素 4節 遷移元素				①遷移元素とその化合物 ②鉄(8族) ③銅(11族) ④銀(11族) ⑤亜鉛(12族) ⑥クロム(6族)とマンガン(7族)	<ul style="list-style-type: none"> 典型元素と遷移元素の特徴を理解する。 (実験) 金属元素の性質
			期末考査				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 高分子化合物 1節 高分子化合物	①高分子化合物の分類と特徴	・高分子化合物の性質や反応を観察、実験を通して探究し、その特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		2節 天然高分子化合物	①糖 ②タンパク質 ③核酸	・天然高分子化合物の構造や性質を理解する。 (実験) 天然高分子化合物の性質	
	11	3節 合成高分子化合物	①合成繊維 ②プラスチック(合成樹脂) ③機能性高分子化合物 ④ゴム	・合成高分子化合物の構造や性質を理解する。 (実験) 合成高分子化合物の合成	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事象・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 評価の方法

下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。
評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。
評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。
評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科 3年 H組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの複製 ②遺伝子の発現	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造や複製様式について学習します。 真核生物と原核生物の転写及び翻訳について学習し、それぞれの違いについて考察します。 	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5	第6章 遺伝情報の発現調節と発生	①遺伝子の発現調節 ②発生と遺伝子の発現 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 原核生物と真核生物の遺伝子の発現調節について学習します。 配偶子形成と受精について学習します。 母性因子とホメオティック遺伝子を学習します。 	
	6	第6章 遺伝情報の発現調節と発生	②発生と遺伝子の発現	<ul style="list-style-type: none"> カエルの発生について学習します。 誘導と誘導の連鎖について学習します。 	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
	7	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子を扱う技術 ②遺伝子を扱う技術の応用 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> クローニング、PCR、電気泳動、DNAシーケンシング等の遺伝子を扱う技術や解析方法について考えます。 遺伝子を扱う際の課題について考えます。 	
	9				

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第8章 動物の反応と行動	①刺激の受容と反応 ②動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> ニューロンのしくみについて学習します。 眼や耳などの受容器について学習します。 脳の構造と機能、反射について学習します。 筋肉の構造と筋収縮のしくみについて学習します。 生得的行動と習得的行動について学習します。特に、様々な習得的行動について学習します。 	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11	第9章 植物の成長と環境 応答	①植物と環境 ②植物の一生と植物ホルモ ン	<ul style="list-style-type: none"> 植物ホルモンについて学習します。 発芽、成長、花芽形成、果実の成熟など植物の一生を通じたホルモンとの関連について考察します。 	
		第10章 生態系のしくみと 人間の関わり	①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費 ③生態系と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 個体群内のさまざまな相互作用について学習します。 個体群間のさまざまな相互作用について学習します。 物質生産や物質収支を通してエネルギーの流れについて学習します。特に窒素の循環について考えます。 	
	12		中間考査		
	1			大学入学共通テストや入試問題に対する実践的な演習を行います。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかること。進度が早いので、自分なりに努力することが必要だと考えます。授業前に予習ができるとう理解が早いです。なるべく問題にあたって、解く力を身につけましょう。内容を深く扱うので、何が大事なことなのか自分なりに精査しましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・3年・H組（選択者）
教科書	啓林館 高等学校 地学	副教材等	センサー 地学 3rdEditon

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。日常生活から離れた場面においても、地学的なもの見方・考え方を拡張して適応できる、応用的・発展的な学力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 地球の概観			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	5	第1節 重力で探る地球の内部 第2節 地震波で探る地球の内部 第3節 熱で探る地球の内部 第4節 地磁気で探る地球の内部	<ul style="list-style-type: none"> ・エラトステネスの測距法 ・地球内部の層構造 ・plate tectonics ・地震の発生機構 	重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを学ぶ。	
			中間考査		
	6	第3章 私たちの日本列島	日本周辺のプレート	日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	7	第1節 日本列島 第2節 日本列島の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 孤一海溝系としての日本列島 日本列島の地質構造 日本の起源（原生代～古生代初め） 日本列島の成長（古生代～新生代古第三紀） 日本列島の成立（新生代新第三紀） 第四紀の日本列島 		
	9	第1章 太陽系の天体 第1節 地球の運動	<ul style="list-style-type: none"> 地球の自転 地球の公転 太陽の動きと時刻・暦 	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また，太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
後期	10	第2節 惑星の運動	惑星の視運動	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また、太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。 遠く離れた恒星の性質について、恒星からの光を調べることで明らかにされてきたことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 		
		第3節 太陽系の天体	惑星の軌道運動				
		第4節 太陽	惑星の誕生・惑星の特徴				
	11		太陽の仕組み				
		第2章 恒星の性質と進化	星の明るさ・等級				
		第1節 恒星の光	恒星までの距離の測り方				
	12	第2節 恒星の性質とHR図	HR図・恒星の大きさ				
			中間考査				
	月	単元名	学習項目			学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第3節 恒星の誕生と進化	恒星の誕生・恒星の一生			恒星と星間物質の大集団である銀河系や遠くの銀河などの天体、宇宙の構造や膨張について学ぶ。また、それが天体観測技術の発達によって次第に可能になっていったことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	2	第3章 銀河系と宇宙	銀河系の観測・銀河系の構造				
		第1節 銀河系	様々な銀河・銀河の分布				
3	第2節 銀河と宇宙	宇宙の大規模構造・ハッブルの法則					
		期末考査					

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができますようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

令和8年度 保健体育科 「体育」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 3年A組～H組
教科書	新高等保健体育	副教材等	なし

1 学習の到達目標

<p>1, 運動の合理的, 計画的な実践を通して, 運動の楽しさや喜びを深く味わい, 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため, 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに, それらの技能を身に付けられるようにする。</p> <p>2, 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>3, 運動における競争や協働の経験を通して, 公正に取り組む, 互いに協力する, 自己の責任を果たす, 参画する, 一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに, 健康・安全を確保して, 生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	体づくり運動	体づくり運動	さまざまな健康の考え方自己の体力や生活に応じて, 体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	課題カード等
	5	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期・後期で1種目ずつ(計2種目)を選択します。 種目の特性を理解し, 自己やグループの能力に応じた課題の発見・解決を目指し, 皆で協力し計画を立て, 実践していきます。 運動・スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるよう, 自ら進んで活動します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	6	水泳	水泳 泳力測定 時間泳	今ある技能, 泳力を測定します。 今できる泳ぎ方でより長く泳ぐことに挑戦して水泳の楽しさや喜びを味わえるようにします。 より高度な技能の習得と, 新たな泳法の習得を行い, 自己の課題解決をするなど泳法の高まりに応じて競泳の仕方を工夫します。 記録に挑戦して, 技能を高めます。 ・4泳法選択練習 ・キック, プル, コンビ, ターン練習 ・タイム測定	出欠 参加意欲・態度 時間泳距離測定 タイム測定 見学レポート
	9	体育理論	運動・スポーツの学び方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習します。また, 健康を成り立たせている要因について説明できるようにします。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
後期	10	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン	前期の選択種目と異なる種目を選択し、前期で学んだことを基礎に、種目の特性を理解し、計画や目標を立て自ら進んで学習します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト	
	11					武道 柔道 剣道
	12					
	1	体づくり運動	体づくり運動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	出欠 課題カード等	
	2					
	3					

3 評価の観点

知識・技能	選択した種目で必要とする技術、体力やその高め方、動きや改善のポイント、仲間と継続的に活発に活動するための調整の仕方等を理解し身に付けている。
思考・判断・表現	自己や仲間が継続的にスポーツと多様に関わる中で広い視野に立って課題を発見できる。自ら計画を立て実践し課題の解決に向け工夫し努力できる。その課題について思考・判断したことを言葉や動作で表現でき、理論的に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	それぞれの種目の活動を通して運動の特性を理解し、その楽しさや喜びを深く味わうことができる。公正に取り組み、互いに協力して自己の責任を果たすことができる。運動やスポーツを継続して実践できる意欲がある。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

安全に楽しく運動することが大切です。運動するのにふさわしい指定の服装に心がけ自己の能力を最大限発揮できるよう努力しましょう。また、生涯を通じて運動に親しむことができるよう運動の方法や理論なども身につけられるようにしましょう。スキルテストで高得点を取ることが目標ではなく、様々な運動技能の発達を促すことを目指し、仲間との関わりを大切にしながら展開していきます。

令和8年度 芸術科 「 美術Ⅲ 」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	3 年 C組
教科書	美術 3	副教材等	デッサン用具、アクリル絵の具セット、油絵道具

1 学習の到達目標

- 1, 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を創意工夫し個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 2, 創造的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し、構想を練ったり、自己の価値意識を高めて美術に関する見方、感じ方を深める。
- 3, 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	絵画表現 卒業制作	卒業制作に向けて	作品鑑賞 教科書、参考作品などを鑑賞ながら、現代アートや有名作品について学習し、多様なイメージの組み合わせによる絵画表現方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・発言内容 ・授業態度 ・制作活動の様子 ・スケッチブック ・作品 ・鑑賞プリント
	5		本作品アイデア 本作品制作	イメージスケッチ 自分が表現したいもの、自身の世界観をじっくり考え、構想を練る。 構図やバランスを考えながら、自分の世界を表現できるよう作品イメージを練る。	
	6			イメージスケッチを基に画材を選ぶ 自分が選んだ描画材で作品制作	
	7		途中作品鑑賞 他者の作品から創造的な表現の工夫を感じ取りワークシートにまとめる。		
前期後半～後期前半	9	絵画表現 卒業制作	本作品制作	自身の世界観、表現したいものを表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント ・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	10				
	12		作品鑑賞会 生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	1	自画像 キャプション 制作	本作品制作 題名札の制作 ----- 作品鑑賞会	自画像という言葉の固定観念に囚われず、自分自身を表現する。 画材は任意とする。 生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント

3 評価の観点

知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える事ができる。 自ら主題を生成し個性豊かに発想し構想を練っている。 自己の価値感を高め、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 感性と美意識を高め、美術文化に親しもうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>美術Ⅲの授業では美術Ⅰ美術Ⅱで学んだ事の成果を表す作品制作となります。今までの美術の授業を思い出し、自分と向き合い、何を表現したいのか、よく考えてみてください。2年間身につけた技術を無駄にせず応用していきましょう。しかし、なによりも大切なのは自分の世界観を大切にしていくことです。自分で見つけた自分なりの表現方法、自分の世界観を存分に発揮してください。</p> <p>※授業内容や時間配分などは、作品の進行状況によって変更する場合があります。</p>
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・C組
教科書	書Ⅲ（光村図書）	副教材等	

1 学習の到達目標

<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。（〔知識及び技能〕の習得）</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。（〔思考力、判断力、表現力等〕の育成）</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（〔学びに向かう力、人間性等〕の涵養）</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	漢字の書 仮名の書	作品制作①（写経）	<ul style="list-style-type: none"> 写経作品の制作を通じて、写経の注意点や知識、金泥の扱いについてを学ぶ。 完成した作品を相互鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況や態度 ワークシートの記入状況 提出作品
	5		臨書	<ul style="list-style-type: none"> 漢字五書体の古典と仮名（古筆）の臨書。（古典、古筆は各自で選択。） 	
	6				
	7		作品制作②（刻字）	<ul style="list-style-type: none"> 各自で古典を選択し、倣書の刻字作品を制作する。 制作した作品を相互鑑賞する。 	
	9				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	作品制作③（蒔絵）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作作品を制作する。 ・ 完成した作品を相互鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加状況や態度 ・ ワークシートの記入状況 ・ 提出作品
	11		作品制作④（掛軸）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半切1/2サイズの創作作品を制作する。 ・ 完成した作品を相互鑑賞する。 	
	12	生活の中の書	実用書①（熨斗袋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ のし袋の書き方を学ぶ。 ・ 手書きのよさや楽しさを知り、実用的な表現方法を考える。 	
	1		実用書②（手紙） 硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙の書き方を学ぶ。 ・ 手書きのよさや楽しさを知り、実用的な表現方法を考える。 	

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の社会生活に生きる様々な書の表現とその要素について理解を深めている。 ・ 書の伝統を踏まえ、目的や用途、意図に応じて創造的に表現する技能を身に付けている。 ・ 漢字の書を構成する様々な要素について理解を深めている。 ・ 書の伝統を踏まえ、書体の特色を生かして創造的に表現する技能を身に付けている。 ・ 仮名の書を構成する様々な要素について理解を深めている。 ・ 書の伝統を踏まえ、仮名の書の特色を生かして創造的に表現する技能を身に付けている。 ・ 線質、字形、構成等の要素と書の美の多様性について理解を深めている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求している。 ・ 書の普遍的価値について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。 ・ 書論を踏まえた書の芸術性について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・ 主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・ 主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・ 主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ・ 書道Ⅲの授業では做書や創作といった作品制作が中心となります。書道ⅠとⅡで学んだ知識・技術を活用し、自分らしい作品や日常に溶け込む作品制作しましょう。そして、書による自己表現を楽しみ味わいましょう。
- ・ 作品制作は構想→試行錯誤（練習）→鑑賞の流れで進め、鑑賞から得たものを次の作品に生かすことが大事です。完成品だけでなく、そこに至るまでの過程も記録・保管しておきましょう。
- ・ 美しいものを美しいと感じる心を一緒に育てていきましょう。自らの感性を大切に、様々な書を鑑賞することが第一歩です。
- ・ 文房四宝は丁寧に取り扱い、使用後のお手入れを怠らないことが上達への近道です。

令和8年度 外国語「英語コミュニケーションⅢ」シラバス

単位数	4 単位	学科・学年・学級	普通科・理教科 3年A組～H組
教科書	CROWN English Communication III (三省堂)	副教材等	英語速読×即解テスト Active Reader Advanced (いっずな書店) ※継続 基礎英文解釈の技術100 (桐原書店) ※継続 Interesting Stories Level 2 (旺文社) パワーマックス英語リーディング40min×10 (Z会) パワーマックス英語リスニング×8 (Z会)

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4	●言語が思考にもたらす影響について、理解して考えを深める。	Lesson 1 How Language Shapes the Way We Think	●本文で紹介された事例や数字がない場合の問題点について、意見を交換したり書いたりする。 ●言語が思考にもたらす影響について講演をした、レラ・ポロディツキー宛ての短い手紙を書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	・定期考査 ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など
5	●武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動について、理解して考えを深める。	Lesson 7 Only a Camera Lens between Us	・自分の人生に影響を与えたものや、紛争がなくなる可能性について、意見を交換したり書いたりする。 ・世界平和や戦争で被害を受けている人々のために自分は何ができるかについて、書いて発表したり、意見を交換したりする。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	
中間考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4	
6	●フェイクニュースの危険性と対処方法について、理解して考えを深める。	Lesson 3 Fake News Is Everywhere Beware!	・自らが経験したフェイクニュースや SNS の功罪について答弁意見を交換したり書いたりする。 ・フェイクニュースへの対応に関する友人へのアドバイスについて、書いて発表したり、意見を交換したりする。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	
7	●スキミング・スキヤニング	Reading Skills 1 Zip Lines	●旅行のオプションツアーに申し込む活動を通し、情報を読み取り、ニーズに合うものを選択させる。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	3	
9	●動物の文化について、理解して考えを深める。	Lesson 9 Culture in the Animal Kingdom	●最も驚かされた本文中の動物の行動の霊や動物に文化がある場合の人の行動の変化について、意見を交換したり書いたりする。 ●動物の文化の定義について、本文中の例やその他の例を示しながら、自分の考えをまとめて書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	
期末考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4	

後期学習指導計画

月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
10	●先延ばし癖の克服方法について、理解して考えを深める。	Lesson 5 How to Beat Procrastination	●自分に先延ばし癖があるかどうかや何かを達成するために定期的にやり遂げていることについて、意見を交換したり書いたりする。 ●先延ばし癖への対処法をテーマとして、学校新聞に掲載する短いエッセイを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	・定期考査 ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など
11	●家電・電子ゴミ問題、企業戦略と消費者運動について、理解して考えを深める。	Lesson 6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash	●修理して長く使っているものや使えるのに廃棄してしまったものについて、意見を交換したりする。 ●家電・電子ゴミ問題に対して個人が何をできるかについて、書いて発表したり、意見を交換したりする。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	
12	●スキミング・スキャンニング	Reading Skills 2 Traveling to Cappadocia	●複数のホテルの施設や価格、宿泊客の評価などを比較させ、宿泊先を選ばせる。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	9	
中間考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4	
1	●裕福さと思いの関係、経済的不平等への対処について、理解して考えを深める。	Lesson 10 Does Money Make You Mean?	●金持ちになると人への接し方が変わるかどうか、共感や仲間意識がどう影響を受けるかについて、意見を交換したり書いたりする。 ●経済的不平等に関する異なる意見をどう考えるかについて、クラスメイトと発表し合う。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
知識・技能	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている身についている。	外国語で書かれた文章を読む場面において活用できる知識・技能を身につけている身についている。	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている身についている。	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている身についている。	外国語で書かれた文章を書く場面において活用できる知識・技能を身につけている身についている。
思考・判断・表現	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、聞き取った情報や考えなどを外国語で的確に理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、読み取った情報や考えなどを外国語で的確に理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に描こうとしている。
主体的に学習に取り組む態度	他者を尊重し、話し手に配慮しながら外国語で聞いたことを活用し、表現しようとしている。	他者を尊重し、書き手に配慮しながら外国語で読んだことを活用し、表現しようとしている。	他者を尊重し、聞き手・話し手に配慮しながら外国語で聞いたことを活用して自分の意見や考えなどを話そうとしている。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら外国語で聞いたことを活用して自分の意見や考えなどを伝えようとしている。	他者を尊重し、読み手に配慮しながら外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを書こうとしている。

評価の方法
定期考査/単語テスト/授業内活動などを上記3観点に基づき、総合的に評価します。
普通科と理数科とは、評価の方法が異なります。

担当者からのメッセージ
(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)
辞書は毎回必ず持参しましょう。予習よりも復習の方が大切です。
予定に縛られることなく、皆さんの様子を見ながら、臨機応変に進めます。

令和8年度 外国語 「論理・表現Ⅲ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 3年A組～H組
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)	副教材等	ファンダメンタルズ The Reflex(桐原書店) Vision Quest 総合英語 (啓林堂)

1 学習の到達目標

「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」及び「書くこと」を中心とした発信能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価基準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4	AIに将来取って代わられない職業について話し合うことができる。 AIに将来取って代わられない職業について意見を述べるパラグラフを書くことができる。 AIに将来取って代わられない職業についてプレゼンテーションをすることができる。	Unit1 Future of jobs in the AI era	[話題] AIと将来の目標 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]本課のトピックについてさらにリサーチを行い、リサーチプレゼンテーションを行う。 [話すこと(やり取り)]「AIに将来取って代わられない職業は何か」について議論する。 [書くこと]意見型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
	自身が成長した経験について話し合うことができる。 自身が成長した経験について描写するパラグラフを書くことができる。 自身が成長した経験についてスピーチをすることができる。	Unit2 How have you grown as a person in your high school life?	[話題] 学校生活 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]本課のトピックについてスピーチを行う。 [話すこと(やり取り)]自身が人として成長するのに役立つ出来事について議論する。 [書くこと]説明・描写型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
	ニュースサービスの利用状況のグラフについて話し合うことができる。 ニュースサービスの利用状況のグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 ソーシャルメディアの問題点についてディスカッションをすることができる。	Unit3 How do people use different types of media?	[話題] ニュースサービスの利用 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]フォーマルディスカッションを行う。 [話すこと(やり取り)]ニュースサービスの利用状況のグラフについて議論する。 [書くこと]グラフ説明型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
中間考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		
6	環境保護の方法を見つけるために、3Rの特徴について話し合うことができる。 環境保護の方法を見つけるために、3Rの特徴を比較するパラグラフを書くことができる。 人々が環境保護のためにできることについてスピーチをすることができる。	Unit4 3R approach in order to save the environment	[話題] 3Rと環境保護 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)]環境保護の方法を見つけるために3Rの特徴を比較しながら議論する。 [書くこと]比較・対比型(比較)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
	キャッシュレス決済の普及の原因とその利点について話し合うことができる。 キャッシュレス決済の普及の原因とその利点を示すパラグラフを書くことができる。 キャッシュレス決済の普及の原因とその利点についてスピーチをすることができる。	Unit5 Moving toward a cashless society	[話題] キャッシュレス決済 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)]キャッシュレス決済の普及の原因とその利点について議論する。 [書くこと]原因・結果型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
9	食品添加物の摂取について話し合うことができる。 食品添加物の摂取について賛否の意見を述べるパラグラフを書くことができる。 食品添加物の摂取についてディベートをすることができる。	Unit6 Are food additives really bad for us?	[話題] 食品添加 [聞くこと]会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)]スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)]すべての食品添加物を避けるべきかについて議論する。 [書くこと]意見型(賛否)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
期末考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		

後期学習指導計画										
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域				評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発書		
10	日本文化を多角的に説明する方法について話し合うことができる。 日本文化を多角的に説明しながら紹介するパラグラフを書くことができる。 日本文化を多角的に説明しながら紹介するスピーチをすることができる。	Unit7 Japanese culture attracting people all over the world	[話題] 日本文化 [聞くこと] 会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)] スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)] 他国の人を魅了する日本文化の1つを描写する方法について議論する。 [書くこと] 説明・描写型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
11	エネルギー構成比を示すグラフについて話し合うことができる。 エネルギー構成比を示すグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 エネルギー構成比を示すグラフについてスピーチをすることができる。	Unit8 Will we live in a decarbonized society in the future?	[話題] 脱炭素社会 [聞くこと] 会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)] スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)] エネルギー構成比を示すグラフからわかることについて議論する。 [書くこと] グラフ説明型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
12	電子教科書と紙の教科書の違いについて話し合うことができる。 電子教科書と紙の教科書を対比するパラグラフを書くことができる。 電子教科書と紙の教科書の違いについてスピーチをすることができる。	Unit9 Reading e-books or printed books?	[話題] 電子教科書と紙の教科書 [聞くこと] 会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)] スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)] 両者の学習上の利点について議論する。 [書くこと] 比較・対比型(対比)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
後期中間				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		
1	社会的な差別の問題とその解決方法について話し合うことができる。 社会的な差別の問題とその解決方法を示すパラグラフを書くことができる。 社会的な差別の問題とその解決方法についてスピーチをすることができる。	Unit10 The way we live together in the same world	[話題] 社会的な差別の問題 [聞くこと] 会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)] スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)] どうすれば社会的な差別をせずに人と付き合うことができるかについて議論する。 [書くこと] 問題解決型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
	少子化について、その原因と結果を説明するパラグラフを書くことができる。 少子化について、複数のパラグラフで問題と解決策を説明するエッセイを書くことができる。	What can we do about our shrinking population?	[話題] 少子化 [聞くこと] 会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 [話すこと(発表)] スピーチを行う。 [話すこと(やり取り)] 日本の少子高齢化について論じている文章を読み、パートナーとあるいはグループで議論する。 [書くこと] 原因・結果型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
評価の観点	観点の趣旨									
知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 [技能] 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。									
思考・判断・表現	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。									
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。									
評価の方法	上記の観点から評価規準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価します。 普通科と理数科の評価方法は異なります。 【評価対象】 (a) 授業中の活動への取り組み状況 (b) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト (c) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (d) 提出物(詳細は担当者に確認する)									
担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	・文法の授業では、これまでの単元別学習をもとに、全分野のランダム演習を行います。苦手な分野については、入念な復習を推奨します。 ・学んだ英語を実際に「書く・話す」機会を大切にしてください。円滑なコミュニケーションのための、語彙や表現、文法の働きを身につけ、クラスメートとのコミュニケーションを通じて、新しい知識や気づきを得ることを目指します。									

令和8年度 外国語「英語研究α」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科第3学年A組(39名)・B組(39名)・C組(40名)・D組(26名)
教科書		副教材等	World Heritage on DVD (南雲堂)

1 学習の到達目標

- ①既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。
 ②様々な分野の英文を読み、入試に不可欠な速読力を身につけることができるようになる。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域					評価項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					開	読	取	発	書		
4	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 1 Statue of Liberty Unit 2 Forbidden City Unit 3 Bath	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。	知	○	○	○			9	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
5				思	○	○	○				
				態	○	○	○				
中間考査				知						0	
6	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 4 Canadian Rockies Unit 5 The Pytamids Unit 6 Ayutthaya Unit 7 Edinburgh	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。	知	○	○	○			9	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
7				思	○	○	○				
9				態	○	○	○				
期末考査				知						0	
				思							
				態							

後期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
10	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 8~14 Taj Mahal, Te Wahipounamuなど	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。	知	○	○	○			9	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
11				思	○	○	○				
12				態	○	○	○				
中間考査				知						0	
				思							
				態							

評価の観点	観点の趣旨
知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
思考・判断・表現	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。また、英語で話して情報や考えなどを適切に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の方法	定期考査、小テスト、授業での取り組み、提出物等から総合的に評価します。
-------	-------------------------------------

担当者からのメッセージ <small>(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)</small>	①単語テストは年8回実施予定です。 ②テキストには映像教材が付属しています。各自で予習・復習に活用することを推奨します。
---	---

令和8年度 外国語「英語研究β」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科第3学年 A組(11名)・B組(9名)・C組(12名)・D組(3名)
教科書		副教材等	CNN Comprehensive Trainer 2026 (朝日出版社) CNN Comprehensive Trainer 2026 提出ノート (朝日出版社)

1 学習の到達目標

「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力をさらに強化するための発展的な活動に行うとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-D0記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価 の 観 点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4	<p>ロボットアーティストについて書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。</p> <p>ロボットアーティストについて、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>ロボットアーティストについて、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。</p>	News 1	<p>〈聞くこと〉ロボットアーティストについて聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉ロボットアーティストについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉ロボットアーティストに関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○	○	7	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発表原稿 文法ワークブックなどの提出物 パフォーマンスの内容や態度
			<p>〈聞くこと〉インスタグラムの機能制限について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉インスタグラムの機能制限についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉インスタグラムの機能制限に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○			
			<p>〈聞くこと〉猛暑による人体への影響について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉猛暑による人体への影響についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉猛暑による人体への影響に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○			
	<p>若い世代の美容意識の高まりについて書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。</p> <p>若い世代の美容意識の高まりについて、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>若い世代の美容意識の高まりについて、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。</p>	News 4	<p>〈聞くこと〉若い世代の美容意識の高まりについて聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉若い世代の美容意識の高まりについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉若い世代の美容意識の高まりに関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○	7		
6	<p>戦争と平和について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。</p> <p>戦争と平和について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>戦争と平和について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。</p>	News 5	<p>〈聞くこと〉戦争と平和について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉戦争と平和についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉戦争と平和に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○	7	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発表原稿 文法ワークブックなどの提出物 パフォーマンスの内容や態度 	
			<p>〈聞くこと〉学生ローンについて聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉学生ローンについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉学生ローンに関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○			
7	<p>中国の家族観について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。</p> <p>中国の家族観について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>中国の家族観について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。</p>	Lesson 7	<p>〈聞くこと〉中国の家族観について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉中国の家族観についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉中国の家族観に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○	7		
			<p>〈聞くこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○			
	<p>アイスランドのクリーンエネルギー活用研究について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。</p> <p>アイスランドのクリーンエネルギー活用研究について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>アイスランドのクリーンエネルギー活用研究について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。</p>	Lesson 8	<p>〈聞くこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究について聞き取る。</p> <p>〈話すこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。</p> <p>〈書くこと〉アイスランドのクリーンエネルギー活用研究に関連する内容について書く。</p>	知	○	○	○	○	7		

後期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
9	アルツハイマー病治療について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 アルツハイマー病治療について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 アルツハイマー病治療について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 9	〈聞くこと〉アルツハイマー病治療について聞き取る。 〈話すこと〉アルツハイマー病治療についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉アルツハイマー病治療に関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	7	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度
10	時間外労働について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 時間外労働について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 時間外労働について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 10	〈聞くこと〉時間外労働について聞き取る。 〈話すこと〉時間外労働についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉時間外労働に関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	7	
11	ニッケル採掘について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 ニッケル採掘について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 ニッケル採掘について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 11	〈聞くこと〉ニッケル採掘について聞き取る。 〈話すこと〉ニッケル採掘についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉ニッケル採掘に関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	7	
12	ホームレスへの取り締まりについて書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 ホームレスへの取り締まりについて、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 ホームレスへの取り締まりについて、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 12	〈聞くこと〉ホームレスへの取り締まりについて聞き取る。 〈話すこと〉ホームレスへの取り締まりについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉ホームレスへの取り締まりに関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	7	

評価の観点	観点の趣旨
知識・技能	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
思考・判断・表現	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。また、外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の方法	上記の観点から評価規準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価します。 (a) 小テスト等のペーパーテスト (b) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (c) ノート・ワークブック・レポート等の提出物を含む、授業での活動への取り組み状況
-------	--

担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	・英語でコミュニケーションをとるときには、積極的な姿勢をもち続けることが大切です。間違いを恐れず、間違いから学ぶ気持ちを持って表現しましょう。 ・英語で実際に書いたり話したりする機会を大切にし、クラスメイトとたくさんコミュニケーションをとることを通して、より高度な英語力を身につけましょう。
--	--